

3. 外国人研究者等の受入れ (1996・97年度)

| 氏名・所属・身分 | 期間 | 研究課題 |
|--|---|--|
| R.S. Paricha (ジャワハルラル・ネルー大学・院生) | 1996. 5. 1 ～97. 5. 31 | 日本の対外援助政策 |
| 肖 平 (中山大学外国語学院日本語学科・助教授) | 1996. 6. 10 ～96. 7. 1 | 中国近代佛教思潮に及ぼした日本佛教について |
| Ahmet Mete Tuncoku (中東工科大学(アンカラ)・教授) | 1996. 6. 14 ～96. 10. 16 | 日土近代化比較研究 |
| 蔡 哲 茂 (中央研究院歴史語言研究所・副研究員) | 1996. 6. 15 ～97. 6. 30 | 甲骨文字義系統の研究 |
| 河 世 鳳 (釜山大学校・講師) | 1996. 7. 1 ～98. 7. 9 | 東アジア交易圏論の再検討 |
| 雋 雪 艶 (北京外国語大学北京日本学研究中心・講師) | 1996. 7. 1 ～96. 7. 31 1996. 11. 1 ～97. 3. 1 1997. 7. 1 ～97. 8. 31 1997. 11. 1 ～98. 3. 31 | 日本の中世における道家思想の受容 |
| Mochtan, Achmad K. P. (国連大学派遣研究員/インドネシア戦略国際問題研究所) | 1996. 7. 1 ～96. 11. 13 | The Peace-process in Cambodia : the challenge to and response from ASEAN |
| 申 東 埃 (基督教放送(CBS)・政治部記者) | 1996. 7. 1 ～98. 6. 30 | 政治主義と法治主義——韓国の政治構造と文化を中心に |
| 李 勛 相 (東亜大学校史学科・副教授) | 1996. 9. 1 ～97. 8. 31 | 朝鮮時代の郷吏と近代以後彼らの進出についての比較史的考察 |
| Paul Navailh (リヨン大学歴史系・博士候補生) | 1996. 9. 1 ～98. 9. 30 | 上海日本人社会史 1895-1945 |
| Indra de Soysa (国連大学派遣研究員/アラバマ大学博士過程) | 1996. 10. 1 ～97. 5. 15 | Empirical Linkages Among Foreign Capital, Democracy and Economic Growth and Development : A Cross National Study |
| 呉 之 桐 (中山大学外国語学院・院長・教授) | 1996. 10. 1 ～97. 3. 31 | 江戸時代佛教と日本の近代化 |
| Srinivasa Chakravarthy Dasari (ジャワハルラル・ネルー大学東アジア研究センター) | 1996. 10. 11 ～97. 3. 31 | 世界における日本の役割——日本・カナダ関係 |
| 虞 和 平 (社会科学院近代史研究所・研究員) | 1996. 10. 20 ～96. 12. 20 | 日中商業会議所の歴史比較 |
| Karl. G. Gerth (ハーバート大学歴史学部・院生) | 1996. 11. 1 ～97. 10. 31 | 中国の経済ナショナリズムと国貨運動 1911-1937 |
| Marina Arlati (国連大学派遣研究員/エセックス大学行政部) | 1996. 12. 1 ～97. 6. 14 | 冷戦後の政府間協力——湾岸危機と旧ユーゴ紛争を事例にして |
| 黄 賢 強 (国立シンガポール大学中国学部・講師) | 1996. 12. 2 ～96. 12. 15 | 辰丸事件：20世紀初頭の中日関係 |
| 魏 蓂 (中山大学中山学術研究所・教授) | 1997. 2. 12 ～97. 2. 26 | 中国型資本主義——中国における市場経済の導入 |
| 王 曉 明 (華東師範大学中国語文学系・教授) | 1997. 3. 15 ～97. 5. 13 | 20世紀中国における文学と知識人の研究 |

| 氏名・所属・身分 | 期間 | 研究課題 |
|--|---------------------------|------------------------------|
| 胡 令 遠 (復旦大学日本研究センター・助教授) | 1997. 4. 1 ～98. 1. 22 | 周作人の日本研究について |
| 金 光 林 | 1997. 4. 1 ～98. 3. 31 | 日鮮同祖論 |
| 盧 建 榮 (中央研究院歴史語言研究所・副研究員) | 1997. 4. 1 ～98. 3. 31 | 7～9世紀日本人の中国観 |
| 張 躍 (社会科学院大学院経済系・博士生) | 1997. 4. 1 ～98. 3. 31 | 中国義利思想の歴史発展及び日本近代義利観との比較 |
| William Bradley Horton (ミシガン大学歴史学部・教授) | 1997. 5. 15 ～98. 5. 14 | マレー語文学と近代インドネシアの生成 |
| Ratan Lal Chakraborty (ダカ大学歴史学部・教授) | 1997. 5. 16 ～98. 3. 15 | バングラデシュ近代村落制度史研究 |
| 馮 慧 芬 (南京芸術学院・講師) | 1997. 5. 20 ～98. 5. 19 | 鎌倉・室町時代に日本に伝わった中国宋元画について |
| Shirley Yee Meng Sam (シンガポール国立大学社会科学科・助手) | 1997. 5. 21 ～97. 5. 31 | 日本におけるタイ人労働者の社会学的調査 |
| 宋 振 東 (上海社会科学院経済研究所・政治経済学博士研究生) | 1997. 5. 25 ～97. 7. 25 | 日中中小企業経済比較 |
| Christoph Werner (バンベルク大学・非常勤講師) | 1997. 5. 26 ～98. 3. 31 | イラン都市史の諸相 |
| 張 隆 志 (中央研究院台湾史研究所・研究助理) | 1997. 6. 1 ～97. 6. 30 | 明治期殖民論と後藤新平の台湾殖民政策 |
| 劉 馨 珺 (台湾大学歴史研究所博士課程・高明士教授) | 1997. 7. 1 ～97. 9. 30 | 南宋における地方機構の祭祀活動 |
| Gentz Joachim Alexander (ハイデルベルク大学中国学研究所・研究生) | 1997. 7. 5 ～97. 8. 26 | 『春秋繁露』にいたるまでの春秋伝の展開 |
| Vittinghoff Natascha-Pernilla (ハイデルベルク大学中国学研究所・研究助手) | 1997. 7. 5 ～97. 8. 26 | 清末におけるジャーナリズム |
| Kevin Maher (国務省政治・軍事問題局化学・生物・ミサイル拡散室・副室長) | 1997. 8. 1 ～98. 7. 31 | 日米安全保障関係に関する日本人の認識構造 |
| Valerie Angela Chambers (国連大学派遣研究員/ジュネーブ大学国際学研究科・博士候補生) | 1997. 8. 1 ～98. 1. 31 | アジア NIES 諸国における貿易と環境 |
| 林 呈 蓉 (中国文化大学史学系・副教授) | 1997. 8. 15 ～97. 9. 30 | 近代日本における海外移民 |
| 洪 秋 芬 (中央研究院近代史研究所・助理研究員) | 1997. 9. 1 ～98. 3. 31 | 領台初期における日本の台湾植民統治政策 |
| Tin Soe (ヤンゴン経済大学・教授) | 1997. 9. 1 ～98. 2. 28 | 転換期のミャンマー経済 |
| 周 婉 筠 (中央研究院台湾史研究所・助理研究員) | 1997. 10. 1 ～98. 3. 31 | 台湾における日本の殖民教育と台湾人の国家アイデンティティ |
| Massoud Daher (レバノン大学史学科・教授) | 1997. 10. 1 ～98. 9. 30 | 日本の近代化の経験 |
| 湯 重 南 (社会科学院世界史研究所・教授) | 1997. 10. 1 ～98. 1. 4 | 近代日本文化的特点乃其在東亞的地位 |

| 氏名・所属・身分 | 期間 | 研究課題 |
|--|-----------------------------|---|
| 王慶成 (社会科学院近代史研究所・所長) | 1997. 11. 17 ~97. 11. 30 | 中国近代史研究情報 |
| 許培徳 (新華社対外編輯組) | 1997. 11. 17 ~97. 11. 30 | 近代中国研究情報 |
| Zaheer Baber (国立シンガポール大学・講師) | 1997. 12. 1 ~97. 12. 31 | シンガポールにおける科学技術と社会関係 |
| 辛珠柏 (成均館大学・講師) | 1998. 1. 1 ~98. 12. 31 | 朝鮮軍(1910-45)の政治 |
| Huang Zhanzhu (金占竹) (ヘルシンキ大学・中国系研究助手) | 1998. 2. 4 ~99. 2. 3 | 楚文化と道教 |
| 陳春声 (中山大学歴史系・教授) | 1998. 2. 5 ~98. 2. 11 | 明清期広東の社会経済史研究 |
| 劉志偉 (中山大学歴史系・教授) | 1998. 2. 5 ~98. 2. 11 | 明清期広東の社会経済史研究 |
| 鄭振満 (廈門大学歴史系・教授) | 1998. 2. 5 ~98. 2. 11 | 明清期福建の社会経済史研究 |
| 申一燮 (湖南大学人文学部史学科・副教授) | 1998. 2. 10 ~99. 2. 10 | 陳獨秀の思想と行動 |
| Jon Quah (シンガポール国立大学・政治学部長) | 1998. 2. 23 ~99. 2. 27 | ①シンガポールのモデルは他の社会にも応用可能か? ②シンガポールの政治学 |
| 金載昊 (成均館大学・講師) | 1998. 3. 1 ~99. 2. 28 | 近代的財政制度の形成過程に関する韓日間の比較研究 |
| 吳密察 (台湾大学歴史系・助教授) | 1998. 3. 25 ~98. 4. 2 | 中国研究に関する資料情報のデータベース化 |
| Haideh Ghomi (ヨテボリ大学(スウェーデン)宗教学部・研究員) | 1998. 3. 30 ~99. 3. 29 | シャイフ・サーディーの『果樹園』『薔薇園』における「真」(haqq)の概念 |

4. 内地研修員の受入れ

| 氏名・所属・身分 | 期間 | 研究課題 |
|------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 秋吉 収 (高知女子大学文学部助教授) | 1996. 10. 1 ~97. 3. 31 | 中国近代文学の総合的研究 |
| 竹内 康浩 (北海道教育大学教育学部釧路校助教授) | 1997. 7. 1 ~98. 2. 27 | 出土資料を中心とする中国古代史の研究 |

5. 日本学術振興会特別研究員（博士課程修了者）の受入れ

1997年度

| 氏名 | 研究課題 |
|------|---------------------------------|
| 高田 卓 | サハラ以南のアフリカにおける認識とコミュニケーションの造形特性 |
| 川島 真 | 1920・30年代の中華民国外交 |

6. 海外との図書寄贈・交換

海外の研究機関と、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』などの本研究所発行の図書の寄贈および交換を行っている。寄贈および交換先は43か国、217機関に及んでいる。なお、国内については294機関と寄贈・交換を行っている。

G 学内教育参加

1. 大学院教育

研究所（協力）講座

当研究所は五つの研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担している。

| 研究科 | 専攻 | 講座名 |
|--------|----------|--|
| 人文社会系 | 基礎文化研究 | 東アジア美術史学 |
| | アジア文化研究 | 比較アジア社会文化論・東アジア社会文化論・南アジア社会文化論・西アジア社会文化論 |
| 法学政治学 | 基礎法学 | 学際基礎法学 |
| | 政治 | 学際政治学 |
| 経済学 | 現代経済 | アジア経済 |
| | 経済史 | アジア経済史 |
| 総合文化 | 超域文化科学 | 比較民族誌 |
| | 地域文化研究 | 環インド洋地域文化研究 |
| 農学生命科学 | 農業・資源経済学 | 汎アジア経済論 |

大学院担当教官

講義を担当している教官は次の通りである。

1996年度

| 研究科 | 専攻 | 担当教官 |
|-------|---------|--|
| 人文科学 | 基礎文化研究 | 小川 |
| | アジア文化研究 | 岡本・濱下・宮嶋・平勢・蜂屋・丘山 丸尾・尾崎・中里・上村・永ノ尾・鈴木 松谷・羽田・後藤・鎌田 |
| 法学政治学 | 政治 | 田中・鈴木 |
| 経済学 | 現代経済 | 高橋・柳澤・長澤 |
| | 経済史 | 加納 |
| 総合文化 | 超域文化科学 | 末成・関本・岡本 |

| | | |
|----------------|----------|--|
| | 地域文化科学 | 松井・柳澤・中里・鈴木・長澤・羽田 後藤 |
| | 国際社会科学 | 原・田中 |
| 理学系 | 地理学 | 松井 |
| 農学生命科学 | 農業・資源経済学 | 原 |
| 1997 年度 | | |
| 人文社会系 | 基礎文化研究 | 小川 |
| | アジア文化研究 | 岡本・濱下・宮嶋・黒田・平勢・蜂屋 丘山・尾崎・中里・上村・永ノ尾・鈴木 羽田・後藤・鎌田 |
| 法学政治学 | 基礎法学 | 高見澤 |
| | 政治 | 猪口・田中 |
| 経済学 | 現代経済 | 高橋・柳澤・長澤 |
| | 経済史 | 加納 |
| 総合文化 | 超域文化科学 | 末成・関本・岡本 |
| | 地域文化研究 | 松井・柳澤・中里・鈴木・長澤・羽田 後藤 |
| | 国際社会科学 | 原・田中 |
| 農学生命科学 | 農業・資源経済学 | 原 |
| 1998 年度 | | |
| 人文社会系 | 基礎文化研究 | 小川 |
| | アジア文化研究 | 岡本・小倉・濱下・宮嶋・黒田・平勢 蜂屋・丘山・尾崎・巖・中里・上村 永ノ尾・鈴木・羽田・後藤・鎌田 |
| 法学政治学 | 政治 | 猪口・田中・鈴木 |
| 経済学 | 現代経済 | 高橋・柳澤・長澤 |
| | 経済史 | 加納 |
| 総合文化 | 超域文化科学 | 関本・岡本 |
| | 地域文化研究 | 松井・加納・柳澤・中里・鈴木・長澤 羽田・後藤 |
| | 国際社会科学 | 原・田中 |
| 農学生命科学 | 農業・資源経済学 | 原・池本 |

2. 学部教育

講義を担当している研究スタッフは次の通りである。

1996年度

| | |
|------|------------------------------------|
| 文学部 | 蜂屋・丸尾・小川 |
| 法学部 | 鈴木 |
| 経済学部 | 長澤 |
| 教養学部 | 原・田中・末成・関本・丸尾・尾崎・加納・柳澤・中里・鈴木 鎌田 |
| 農学部 | 原 |

1997年度

| | |
|------|--------------------------|
| 文学部 | 高見澤・蜂屋・小川・中里・後藤 |
| 法学部 | 田中 |
| 経済学部 | 柳澤 |
| 教養学部 | 田中・末成・関本・高見澤・加納・高橋・柳澤・中里 |

1998年度

| | |
|------|----------------------|
| 文学部 | 平勢・蜂屋・小川・後藤 |
| 教養学部 | 田中・関本・黒田・加納・柳澤・中里・後藤 |
| 農学部 | 原・池本 |

H 刊行物一覧

1. 東洋文化研究所紀要

第131冊（1996年11月）

慧可と向居士の往復書簡

——初期禪宗思想史の課題

中嶋 隆藏

李宗侗（玄伯）旧蔵『忠義水滸伝』

笠井 直美

アウヴァイヤール作『アーッティ・スーディ』

——ヴェーンカタサーミ・ナーッタール註の和訳と解説（一）

山下 博司

『支那革命外史』からみた中国革命と日本ファシズム

——アジア民族主義革命の理念と現実

前川 亨

判断形容詞と動詞とが組み合わさった統合型の統合意義特徴の分析

大滝 幸子

談魯迅的文学（演講二篇）

丸尾 常喜

明清期、広西チワン、漢両民族の移住と「漢化」

——桂平県、「講壯和」韋昌輝の拝上帝会参加

菊池 秀明

第132冊（1997年2月）

淳熙臧否とその失敗

——宋の地方官監察制度に見られる二つの型（一）

青木 敦

夷と華の狭間で——韓元震に於ける夷狄と中華

山内 弘一

魯迅の祖父周福清攷（八）

——その家系、生涯及び人物像について

松岡 俊裕

英雄と処女神（二）——インボング民譚集

塩田 光喜

中国の所得格差に関する考察

河合 弘子

新訳『エリュトラ海案内記』

萩 勇造

第133冊（1997年3月）

漢代「順気行罰」考

影山 輝國

小説と歴史——魯迅『中国小説史略』試論

廣瀬 玲子

隋唐洛陽城の官人居住地

妹尾 達彦

アウヴァイヤール作『アーッティ・スーディ』

| | |
|--------------------------------------|------------------|
| ——ヴェーンカタサーミ・ナーツタール註の和訳と解説(二) | 山下 博司 |
| Die Weltentsagung der Ikṣvāku-könige | Ryutaro Tsuchida |
| Nimi Jātaka テキスト形成史研究 | |
| ——ヴィデーハ王による生前の天界訪問 | 入山 淳子 |
| 香港住民の政党支持に関する一考察 | |
| ——各種電話聞き取り調査の結果を踏まえて | 谷垣真理子 |
| 中国人民解放軍の経済活動 | 浅野 亮 |
| 丸尾常喜教授 略歴・主要著作目録 | |
| 松谷敏雄教授 略歴・主要著作目録 | |

第134冊(1997年12月)

| | |
|------------------------------|-------|
| 関羽と劉淵——関羽像の成立過程 | 大塚 秀高 |
| 前漢における「蠻夷降者」と「歸義蠻夷」 | 熊谷 滋三 |
| 魯迅の祖父周福清攷(九) | |
| ——その家系、生涯及び人物像について | 松岡 俊裕 |
| 在日華商の社会組織とその商業ネットワーク | |
| ——長崎福建会館の事例を中心に(1860~1950年代) | 廖 赤 陽 |
| バイターヴァ出土「舎衛城の双神変」図浮彫に関する一考察 | 田辺 勝美 |
| タイとインドネシアの経済発展下の農業部門における過剰就業 | 新谷 正彦 |
| 「アジア的価値」とアジアの民主主義 | 猪口 孝 |

第135冊(1998年3月)

| | |
|-----------------------------|-------|
| 所謂『二入四行論長卷子』雑録第一について | |
| ——初期禅宗思想史の課題 | 中嶋 隆藏 |
| 魯迅の祖父周福清攷(十) | |
| ——その家系、生涯及び人物像について | 松岡 俊裕 |
| 閉じこめられたヒツジたち | |
| ——中国江南農耕社会のヒツジ飼育から見た商品経済の発展 | 菅 豊 |
| 19世紀ダマスクスのイスラム法廷文書(1) | |
| ——サーリヒーヤ法廷をめぐる人間関係 | 三浦 徹 |
| Makhādevasutta と『大天捺林経』 | 入山 淳子 |
| 香港住民のアイデンティティーに関する一考察 | |
| ——電話聞き取り調査の結果を中心にして | 谷垣真理子 |
| 北朝鮮の食糧事情と中国の援助 | 河合 弘子 |

『金光明經 如来寿量品』と『大雲經』
末成道男教授 略歴・主要著作目録

鈴木 隆泰

2. 東洋文化

- 第77号(1997年3月) 特集“中国現代文学研究”
- ノラ、自動車に乗る——胡適「終身大事」を読む 清水賢一郎
- 小品作家周作人の誕生と雨の日の心象風景
——「自分の畑」から「雨天の書」まで 伊藤 徳也
- 自由の隘路——一九二〇年代中国知識人の自由の観念をめぐる 下出 鉄男
- 『怒吼罷、中國!』覚書き——『Рыун Китай』から『吼えろ支那』、
そして『怒吼罷、中國!』へ 芦田 肇
- 「超人」と「地母」——張愛玲文学の系譜 邵 迎 建
- 〈思考と感覚の融合〉を求めて——九葉派の詩と詩論 佐藤普美子
- 二十一世紀をめざす中国文学研究 林非著・丸尾常喜訳

- 第78号(1998年3月) 特集“ベトナムの人類学的研究”
- 序 末成 道男
- 世帯を通してみたベトナム南部村落における親族の位置づけ 中西 裕二
- ベトナムの父系集団——ハノイ近郊村落の事例より 末成 道男
- 革命以前の北部ベトナム村落における年齢階梯制と地位獲得競争 宮沢 千尋
- 入夏儀礼について——現代ベトナム村落における革命と伝統 比留間洋一
- 北ベトナム村落生活における婚姻の社会主義改革の結果
ショーン・K・マラーニ著 津村文彦訳
- 皇帝と女性の祀る社——ヴィエトナム、フエのホンチェン殿 田村 克己
- ベトナム・ハノイ地域の南薬に関する医療人類学的研究 板垣 明美
- 20世紀初頭のベトナムにおける「民族」概念 岡田 建志
- 銅鼓「再編」の時代——一千年紀のベトナム・南中国 吉開 将人

3. 東洋文化研究所研究報告 (*印は在庫なし)

- *1. 仁井田 隆『中国の農村家族』 1952
- *2. 周藤 吉之『中国土地制度史研究』 1954
- *3. 泉 靖一・斎藤 廣志『アマゾン その風土と日本人』 1954

- *4. 大林 太良『東南アジア大陸諸民族の親族組織』 1955
- *5. 結城 令聞『世親唯識の研究 上』 1956
- *6. 関野 雄『中国考古学研究』 1956
- *7. 窪 徳忠『庚申信仰』 1956
- *8. 江上 波夫他『館址 東北地方における集落址の研究』 1958
- *9. 仁井田 陞『中国法制史研究 刑法』 1959
- *10. 仁井田 陞『中国法制史研究 土地法・取引法』 1960
- *11. 米澤 嘉圃『中国絵画史研究』 1961
- *12. 結城 令聞『唯識学典籍志』 1962
- *13. 仁井田 陞『中国法制史研究 奴隸農奴法・家族村落法』 1962
- *14. 築島 謙三『文化心理学基礎論』 1962
- *15. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 年譜篇』 1962
- *16. 仁井田 陞『中国法制史研究 法と慣習・法と道德』 1964
- *17. 鎌田 茂雄『中国華嚴思想史の研究』 1965
- *18. 江上 波夫『アジア文化史研究 要説篇』 1965
- *19. 泉 靖一『濟州島』 1966
- *20. 江上 波夫『アジア文化史研究 論考篇』 1967
- *21. 鈴木 敬『明代絵画史研究 浙派』 1968
- *22. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 島嶼篇』 1969
- *23. 中根 千枝『家族の構造 社会人類学的分析』 1970
- *24. 窪 徳忠『沖繩の習俗と信仰』 1971
- *25. 川野 重任『農業発展の基礎条件』 1972
- *26. Nakamura Kojiro, *Ghazali on Prayer*, 1973
- *27. 窪 徳忠『増訂 沖繩の習俗と信仰』 1974
- *28. 鎌田 茂雄『宗密教学の思想史的研究』 1975
- *29. 松井 透『北インド農産物価格の史的研究 1861~1921年』 1977
- *30. 荒 松雄『インド史におけるイスラム聖廟 宗教権威と支配権力』
1977
- *31. 池田 温『中国古代籍帳研究 概観・録文』 1979
- *32. 田仲 一成『中国祭祀演劇研究』 1981
- *33. 松丸 道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』 1983
- *34. 田仲 一成『中国の宗族と演劇 華南宗族社会における祭祀組織・儀礼
及び演劇の相関構造』 1985
- *35. 鎌田 茂雄『中国の仏教儀礼』 1986

- *36. 松井 透『イギリス支配とインド社会 19世紀前半北インド史の一研究』 1987
- *37. 鎌田 茂雄『新羅仏教史序説』 1988
- *38. 斯波 義信『宋代江南経済史の研究』 1988
- *39. 田仲 一成『中国郷村祭祀研究 地方劇の環境』 1989
- *40. 濱下 武志『中国近代経済史研究 清末海関財政と開港場市場圏』 1989
- 41. 上村 勝彦『インド古典演劇論における美的経験 Abhinavagupta の rasa 論』 1990
- 42. 宮嶋 博史『朝鮮土地調査事業史の研究』 1991
- 43. 柳澤 悠『南インド社会経済史研究 下層民の自立化と農村社会の変容』 1991
- 44. Matsutani Toshio ed., *Tell Kash kashok*
The Excavations at Tel No. II, 1991
- 45. 山田 三郎『アジア農業発展の比較研究』 1992
- *46. 蜂屋 邦夫『金代道教の研究 王重陽と馬丹陽』 1992
- *47. Tomosugi Takashi, *Reminiscences of Old Bangkok: Memory and the Identification of a Changing Society*, 1993
- *48. 田仲 一成『中国巫系演劇研究』 1993
- 49. 原 洋之介『東南アジア諸国の経済発展 開発主義的政策体系と社会の反応』 1994
- 50. 岡本 さえ『清代禁書の研究』 1996
- *51. 丸尾 常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- 52. 末成 道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- 53. 蜂屋 邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998

4. 東洋文化研究所叢刊 (*印は在庫なし)

- *1. 鎌田 茂雄『華嚴学研究資料集成』 1983
- 2. 深井 晋司編『ターク・イ・ブスターンⅢ 実測図集成』 1983
- *3. 鎌田 茂雄『禅典籍内華嚴資料集成』 1984
- 4. Nakane Chie ed., *Social Science and Asia*, 1984
- *5. 蜂屋 邦夫編『儀禮士冠疏』 1984

- *6. 鎌田 茂雄『道藏内仏教思想資料集成』 1986
- 7. 山田 三郎編『中部タイ稲作農村の経済変容』 1986
- *8. 蜂屋 邦夫編『儀禮土昏疏』
- *9. Seki Hiroharu, *The Asia-Pacific in the Global Transformation*, 1987
- *10. 蜂屋 邦夫編『中国道教の現状 道士・道協・道観』 1990
- *11. 池田 温編『中国古代寫本識語集録』 1990
- *12. Tomosugi Takashi, *Rethinking the Substantive Economy in Southeast Asia*, 1991
- *13. 松丸 道雄編『甲骨文字字釋綜覧』 1993
- *14. 加納 啓良編『中部ジャワ農村の経済変容 チョマル郡の85年』 1994
- *15. 平勢 隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- 16. 蜂屋 邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- *17. 羽田 正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- *18. 平勢 隆郎『中國古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996

5. イラク・イラン遺跡調査団報告

- 『テル・サラサート I』*1958, 『同II』*1970, 『同III』1975, 『同IV』1981,
- 『マルグ・ダシュト I』*1962, 『同II』*1962, 『同III』1973
- 『ファハリアン I』*1963
- 『西アジアの人類学的研究 I』*1963, 『同II』*1968
- 『デーラマン I』*1965, 『同II』*1966, 『同III』*1968, 『同IV』1971
- 『ターク・イ・ブスターン I』*1969, 『同II』*1972, 『同III』1983, 『同IV』1984
- 『ハリメジャン I』1980, 『同II』1982

6. インド史跡調査団報告

- 『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』 第I巻 遺跡総目録 *1967,
- 第II巻 墓建築 *1969, 第III巻 水利施設 *1970

7. 東アジア部門美術研究分野報告

- 『中國繪畫總合圖録』 第一巻 アメリカ・カナダ篇 *1982
第二巻 東南アジア・ヨーロッパ篇 *1982
第三巻 日本篇Ⅰ 博物館 *1983
第四巻 日本篇Ⅱ 寺院・個人 *1983
第五巻 総索引 *1983
- 『中國繪畫總合圖録 續編』 第一巻 アメリカ・カナダ篇 *1998
第二巻 アジア・ヨーロッパ篇 *1998

8. 蔵書目録

- 『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 *1973
『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 書名人名索引』 *1975
『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版 *1981, *1996
『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 *1996
『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 索引 *1996

9. その他

- 『アジアの社会と文化』 創立40周年記念論集 全三巻 *1982
『東洋文化研究所の50年』 創立50周年記念誌 1991
『アジアの文化と社会』 創立50周年記念論集 全三巻 *1992
『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
Conference Proceedings Asia in the Twenty-First Century : Toward a New Framework of Asian Studies. *1996

I 執筆著書・論文等総数 受賞

本研究所の教官が1996・97年度に発表した著書・論文等の点数は次の通りである。

著書39冊、論文168本、その他248点

本研究所の教官が1996・97年度に受賞した賞は次の通りである。

| | | |
|-----------|----------------|-------|
| サントリー学芸賞 | 田中 明彦『新しい「中世」』 | 1996年 |
| 国際開発研究大来賞 | 原 洋之介『開発経済論』 | 1997年 |

VIII 所員の活動

汎アジア部門

原 洋之介 ほら ようのすけ

略 歴

1944.2 生。1967 東大・農・農経卒，1969 年同大大学院農学・農経・修士課程終了，1972 同博士課程退学，1976 農学博士（東大）。1972 年東文研助手，その間 1975 年から 1977 年まで国際連合アジア太平洋経済社会委員会（バンコク）に派遣，1978 国際開発センター研究員（非常勤），東大農学部非常勤講師，1979 東文研助教授，1988 同教授，1998 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長。

研究活動の概要

経済学が対象としている市場経済に関して地域研究の視点からその理論の拡張をはかると同時に，地域研究が焦点をあてているアジア各地の社会構造に対応して市場経済の展開に地域性がみられることを解明する研究を続けている。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『クリフォード・ギアツの経済学』リプロポート 1985

『アジア経済論の構図』リプロポート 1992

『東南アジア諸国の経済発展』東文研報告 1994

ほか多数

過去 2 年間の研究業績

『アジア・ダイナミズム』NTT 出版 1996

『開発経済論』岩波書店 1996

ほか 20 点

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部（1996・97年度）、一橋大学経済学部（1997年度）、
横浜市立大学商学部（1997年度）

学外活動

京都大学東南アジア研究センター併任教授（1997.11～1998.3）、アジア政経学
会（理事）、農林省農業総合研究所専門委員（1990.4以降）、大蔵省財政金融研
究所特別研究官（1995.4以降）、国際開発センター研究顧問（1985.4以降）、大
蔵省外国為替等審議会委員（1997.10～1998.6）

池本 幸生 いけもと ゆきお（1998.4配置換着任）

略 歴

1956.6生。1980京大経卒，1993京都大学博士（経済学）。1980アジア経済研
究所入所，1987海外派遣員（タイ国チュラロンコン大学社会科学研究所，1989
年まで），1990アジア経済研究所退職，同年京都大学東南アジア研究センター助
教授，1993東南アジア研究センター・バンコク連絡事務所駐在（94年まで），
1998東文研助教授。

研究活動の概要

主としてタイの経済発展と所得分配について研究してきた。その後，地域研究
との接点を求めて，タイ経済史研究や，農村工業などの調査を行ってきた。現在
は，タイの経済発展を東南アジアという地域単位で捉えようとしている。

過去の主要業績（1996.3まで）

Income Distribution in Thailand: Its Changes, Causes and Structure, Institute of
Developing Economies, 1992.

「ラーマ四世期の『消極的』経済政策」『東南アジア研究』31-4 1993.9

“An Expansion of Cottage Industry in Northeast Thailand—A Case of Tri-
angular Pillows in Yasothon Province.”『東南アジア研究』33-4 1996.3

ほか多数

過去2年間の研究業績

「タイの所得分布と貧困率」「マレーシアの所得分布と貧困率」溝口敏行・松田
芳郎編『アジアにおける所得分配と貧困率の分析』多賀出版 1997.1

ほか19点

本学以外での教育活動

京都大学人間・環境学研究科 (1996・97), 京都大学経済学研究科 (1996・97),
大阪外国語大学タイ文化特殊講義Ⅲ (1996・97)

学外活動

東アジア経済学会, 進化経済学会, アジア政経学会

猪口 孝 いのぐち たかし

略 歴

1944.1 生。1966 東大・教養・教養卒, 1968 東大社会学, 国際関係論・修士号,
1974 マサチューセッツ工大政治学部大学院政治学博士号。1969-1970 上智大学助
手, 1974-1977 上智大外国語助教授, 1977-1988 東大東文研助教授, 1988-現在同
大教授, 1984-1986 同上東洋学文献センター助教授, 1993-1995, 国際連合大学
兼任研究員, 1995-1997 国際連合大学上級副学長, 1977-1978 スイス・ジュネー
ブ大学客員教授, 1983-1984 ハーバード大学客員研究員。

研究活動の概要

アジアの国際政治, 日本政治, 政治理論の研究。刊行は和書 30 冊, 洋書 10 冊,
論文は数百本。社会科学研究的引用索引として最も権威のある *Social Science Cita-
tion Index* に頻繁に引用される。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『現代政治学叢書』東京大学出版会(全 20 巻予定 既刊 17 巻の責任企画編集)
1988～

『シリーズ東アジアの国家と社会』東京大学出版会(全 6 巻責任企画編集)
1992～1993

The Political Economy of Japan, (Vol.2), co-editor, Stanford University Press,
1988.

ほか数百点

過去 2 年間の研究業績

『政治学者のメティエ』筑摩書房 1996

『冷戦後の日米関係』(共編著) NTT 出版 1997

ほか 48 点

本学以外での教育活動

国際連合大学で広い意味での教育活動を行った。(1995～96 年度)

学外活動

国際連合大学上級副学長 (1995.4~1997.3), 日本政治学会 (理事), 日本国際政治学会 (理事), 『レヴィアサン』編集同人, *International Studies Quarterly* (International Advisory Board), *Mershon International Studies Review* (International Advisory Board), *Review of international Studies* (International Advisory Board), *Journal of Conflict Resolution* (International Advisory Board), *Government and Opposition* (International Advisory Board), *Journal of Japanese Studies* (Editorial Board), *Asian Journal of Political Science* (Editorial Board), *Social Science Japan Journal* (International Advisory Board).

田中 明彦 たなか あきひこ

略 歴

1954.8 生。1977 東大・教養・教養卒, 1981 Ph. D. (政治学・マサチューセッツ工大)。1981 平和・安全保障研究所研究員, 1983 東大教養学部助手, 1984 東大教養学部助教授, 1986-1987 ルール大学ボーフム客員教授, 1990 東文研助教授, 1994-1995 オックスフォード大学セントアントニーズカレッジ客員研究員, 1998 東文研教授。

研究活動の概要

世界システムについての理論的・実証的な分析, 現代東アジアの国際政治の分析, および国際政治分析のためのデータベース作成ならびにコンピュータによる分析手法の開発を行っている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

- 『世界システム』東京大学出版会 1989
- 『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991
- 『戦争と国際システム』東京大学出版会 1992
- ほか多数

過去2年間の研究業績

- 『新しい「中世」』日本経済新聞社 1996
- 『安全保障』読売新聞社 1997
- ほか73点

本学以外での教育活動

- 青山学院大学大学院国際政治経済学部 (1996 年度)

学外活動

アジア政経学会（理事）、日本国際政治学会（企画委員、対外交流委員）、経済審議会臨時委員（1996-1997）

原田 至郎 はらだ しろう

略 歴

1967.10 生。1990 東大・教養・教養卒，同年東大大学院総合文化・国際関係論・修士課程入学，1992 同修了，同年同博士課程進学，1994 日本学術振興会特別研究員，1996 同採用期間満了，同年東大大学院博士課程退学，同年東文研助手。

研究活動の概要

研究対象としては戦争，研究手法としては数量分析に主な関心がある。現在は、武力紛争の終結についての統計的分析やケース・スタディを試みる一方，政治関連文書の内容分析システムについて共同研究を行っている。

過去の主要業績（1996.3まで）

- 「近代世界システムにおける戦争とその統計的記述 1495年から1989年まで」
- 「世界システムレベルの戦争相関因子 力の分布構造と世界経済の状態」山本吉宣・田中明彦編『戦争と国際システム』東京大学出版会 1992
- 「世界システムレベルの戦争相関因子」『相関社会科学』2・3 1992

過去2年間の研究業績

- 「総理演説にみる日本の政治指導者の戦略意識の変遷」神谷万丈編『国家戦略序説』財団法人日本国際フォーラム 1998
- “Wars and their Termination in post-WWII Asia: Temporal and Regional Characteristics, and ‘Greater China’,” paper presented at the International Conference on “Greater China: Problems, Prospects and Policies,” held at the Open Learning Institute of Hong Kong on 25-26 January 1997.

ほか2点

学外活動

日本国際政治学会，国際法学会，日本政治学会

松井 健 まつい たけし

略 歴

1949.6 生, 1972 京大・理卒, 1974 京大大学院理・動物・修士課程修了, 1976 京大大学院理・動物・博士課程退学, 同年京大人文学研究所助手, 1980 理学博士(京大)。1983 神戸学院大教養部助教授, 1990 神戸学院大人文学部助教授, 1991 同教授, 1992 東文研助教授, 1994 同教授。

研究活動の概要

認識人類学を中心にした文化記述のための方法論に関する研究, 自然をめぐる文化的なプラクシスについての通文化的研究, および, アフガニスタン・イラン東部・パキスタン・インド西部を対象とする西南アジア乾燥地帯の記述的研究。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『琉球のニュー・エスノグラフィー』人文書院 1989

『セミ・ドメスティケーション 農耕と遊牧の起源再考』海鳴社 1989

『認識人類学論攷』昭和堂出版 1991

ほか多数

過去2年間の研究業績

『自然の文化人類学』東京大学出版会 1997.9

「西アジアにおける人間と動物」国立歴史民俗博物館(編)『動物と人間の文化誌』吉川弘文館 1997.8

ほか7点

本学以外での教育活動

富山大学人文学部(1997年度), 弘前大学人文学部(1996年度)

学外活動

日本民族学会, 生態人類学会, 日本人文地理学会, 国立民族学博物館研究協力者・共同研究員, 沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員, 国立歴史民俗博物館共同研究員

末成 道男 すえなり みちお (1998.3 退職)

略 歴

1938.3 生, 1962 東大・教養・教養卒, 1964 東大大学院生物・人類学・修士課程修了, 1970 東大大学院社会学, 文化人類学・博士課程退学, 同年学術振興会

奨励研究員(1972年まで), 1971社会学博士(東大)。1972聖心女子大文学部専任講師, 1975同助教授, 1983同教授(1990年まで), 1987北京外国語学院, 日本学研究中心客員教授, 1989年ピッツバーグ大学客員教授, 1990東文研教授。1998停年退職。

研究活動の概要

東アジアの社会と宗教の比較を主要テーマとし, 日本, 台湾(原住民, 漢族), 韓国, 中国大陸でそれぞれ, 長期の社会人類学的調査を行った。1992年より15回にわたりベトナム社会の日, 漢, 韓社会との比較研究を進めている。

過去の主要業績(1996.3まで)

『台湾アミ族の社会組織と変化』東京大学出版会 1982

『中国文化人類学文献解題』(編)東京大学出版会 1995

Perspectives on Chinese Society: View from Japan, Eds. with J. S. Eades & C. Daniels, 1995.

過去2年間の研究業績

『東洋文化』78 特集“ベトナムの人類学的研究”東京大学東洋文化研究所
1998.3

『ベトナムの祖先祭祀——潮曲の社会生活』東文研紀要別冊 風響社 1998.3

学外活動

日本学術会議東洋学研究連絡委員(1996・97年度), 東京外国語大学AA研共同研究員(1996・97年度), 国立民族学博物館共同研究員(1996・97年度)

関本 照夫 せきもと てるお

略 歴

1947.1 生, 1972東大・教養・教養卒, 1974修士(社会学・東大)。1976国立民族学博物館助手, 1981一橋大社会学部講師, 1982カリフォルニア大学バークレイ校人類学部客員研究員(1984まで), 1983一橋大社会学部助教授, 1987東文研助教授, 1991東文研教授。

研究活動の概要

専門は文化人類学・東南アジア地域研究。インドネシアのジャワ島を中心に, 農村の社会文化変容, 政治と文化, 海外移民などの研究を行ってきた。現在は, 伝統工芸と地場産業の研究を東南アジアの他の地域との比較で進めている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「サウイト事件の文化論的考察」鈴木中正編『千年王国的民衆運動の研究』東京大学出版会 1982

「ジャワ人のヒエラルキーと自由——村人の集いの二つの形」『東文研紀要』116 1992

『国民文化が生まれる時』(共編著) リプロボート 1994

ほか

過去2年間の研究業績

“Uniforms and concrete walls: Dressing the village under the New Order in the 1970s and 1980s,” in Henk Schulte Nordholt ed., *Outward Appearances: Dressing State and Society in Indonesia*, Leiden: KITLV Press, 1997.

「文化概念の用法と効果」青木他編『岩波講座・文化人類学 13 卷・文化という課題』岩波書店 1998・3

本学以外での教育活動

聖心女子大学 (1997 年度)

学外活動

日本民族学会, 東南アジア史学会, Japan-Southeast Asia Forum (Chair), American Anthropological Association, Association for Asian Studies, 国立民族学博物館共同研究員 (1996.4~1998.3), 東京外語大学・AA 研共同研究員 (1996.4~1998.3), 中部大学中部高等学術研究所客員教授 (1997 年度), 財団法人国際文化会館評議員 (1997.3 より)

岡本 サエ おかもと さえ

略 歴

1941.3 生, 1964 東大・教養学部卒, 1966 東大大学院人文・比較文化・修士, パリ大学人文学部博士 (Docteur de l'université de Paris). 1969 東大教養学部助手, 1971 東文研助手, 1977 千葉大教養部助教授, 1990 年東洋学文献センター教授, 東文研教授兼務, 1991 東洋学文献センター主任兼務。

研究活動の概要

中国の近世社会を, 1) 比較思想 2) 思想統制 に焦点を絞って研究。1) 『近世中国の比較思想』を執筆中。2) 乾隆禁書に至る文字獄により失われた思考を考察。東洋学文献センターでの研究活動は, 「現代中国書データベース」を作成。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『清代禁書の研究』東文研紀要別冊 1996

「中華における比較文化的意識の特徴」『東洋文化』75 1995

「徐光啓と夷狄」『異文化を生きた人たち』中央公論社 1993

ほか 24 点

過去 2 年間の研究業績

「中国とヨーロッパの文化交流」『中世史講座』11 学生社 1996

「東洋文化研究所所蔵現代中国書データベース」『全国文献・情報センター人文
社会科学学術情報セミナーシリーズ』4 1996

本学以外での教育活動

横浜市立大学大学院国際文化研究科 (1996・1997 年度)

学外活動

日仏東洋学会 (監事), 中国社会文化学会 (評議員), R. B. S. (中国研究文献
紹介仏誌) 寄稿会員, 前田奨学基金運営委員

小倉 泰 おぐら やすし (1998.4 採用, 98.5.16 逝去)

略 歴

1959.9 生。1982 東大・法卒, 1984 東大大学院人文・比較文学比較文化・修士
課程修了, 同年東大大学院総合文化・比較文学比較文化・博士課程進学, 1986
から 1988 までインド・プーナ大学大学院留学, 1989 東大大学院総合文化・比較
文学比較文化・博士課程単位取得退学, 1989 東文研助手, 1991 から 1992 まで米
国・ペンシルヴェニア大学客員研究員, 1994 東海大学文学部助教授, 1998 東洋
学文献センター助教授, 東文研助教授兼務。

研究活動の概要

インド中世のヒンドゥー教の美術および建築の構成原理を, 文献と作例の両面
から分析して, その背景にある空間の観念の特色を明らかにしようとしてきた。
現在は, 南インドを中心とした中世の王権と寺院の関係に関心を持っている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「南インドのヒンドゥー寺院の象徴性 (2) — ヴァーストゥプルシャマンダラ
と寺院の平面設計」『東洋文化研究所紀要』115 1991

“Formation of the Talamana System: Iconometry of South Indian Sculpture,”
the Memoirs of the Institute of Oriental Culture 124, 1994.

「南インドヒンドゥー彫刻における理想的プロポーション——統計的手法による一考察」『美術史』137 1995

ほか多数

過去2年間の研究業績

「ガルバ・グリハの〈ずらし〉とマルマン——ヒンドゥー寺院の設計に関する新たな解釈」今西順吉教授還暦記念論集刊行会編『今西順吉教授還暦記念論集——インド思想と仏教文化』春秋社 1996

“The Changing Concept of Kingship in the Cola Period: Royal Temple Construction, ca. A. D. 850-1279,” *Acta Asiatica* 74, 1998.

ほか4点

本学以外での教育活動

東海大学文学部（1996・97年度）

学外活動

日本南アジア学会，日本印度学仏教学会，美術史学会，東大比較文学会，American Oriental Society，民族学博物館共同研究員（1994.4—現在），東京外国語大学・AA研共同研究員（1997.4—現在）

東アジア部門（第一）

濱下 武志 はました たけし

略 歴

1943.11 生。1972 東大・文・東洋史卒，1974 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了，同年同博士課程入学，1976 香港大センター・オブ・エイジアン・スタディーズにパートタイム・リサーチ・アシスタント（1977まで），1977 東洋文庫奨励研究員（1979まで），1978 東大大学院博士課程退学，1979 一橋大経済学部専任講師，1981 同助教授，1982 東文研助教授，1988 同教授，1996 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長（1998まで）。

研究活動の概要

東南アジア華人と中国華南との歴史的な結びつきを，香港に焦点を当てて研究・調査を行っている。その内容は，華僑送金のメカニズムと，華南・東南アジア間の商業ネットワークを明らかにすることである。

過去の主要業績 (1996.3まで)

- 『中国近代経済史研究 清末海関財政と開港場市場圏』東文研研究報告 1989
『近代中国の国際的契機』東京大学出版会 1990
“The Tribute Trade System and Modern Asia,” in A.J.H. Latham ed. *Japanese Industrialization and the Asian Economy*, Routledge, London, 1994.

過去2年間の研究業績

- 『朝貢システムと近代アジア』岩波書店 1997
“The Intra-regional System in East Asia in Modern Times,” in Peter J. Katzenstein ed., *Network Power, Japan and Asia*, Cornell University Press, Ithaca and London, 1997.

ほか24点

学外活動

社会経済史学会(理事・編集委員) アジア政経学会(理事), 沖縄県教育委員会『歴代宝案』編集委員

高見澤 磨 たかみざわ おさむ (1997.4採用)

略 歴

1958.6生。1982 東大法卒, 1984 法学修士(東大), 1994 博士(法学・東大)。1993 東大教養学部助手, 1994 同退職, 同年立命館大学国際関係学部助教授, 1997 同退職, 同年東文研助教授, 1998 海外研修(北京日本学研究中心(北京外国語大学内)主任教授補佐), 1999 帰国予定。

研究活動の概要

従来, 中華人民共和国における紛争と紛争解決, 中華人民共和国における法源, 中国法研究の作法の3つを中心に研究を行ってきた。今後は清末以降の中華民国に至る中国近代法史研究にも着手する。

過去の主要業績 (1996.3まで)

- 「罪観念と制裁 中国におけるもめごとと裁きとから」『シリーズ世界史への問い 第5巻 規範と統合』岩波書店 1990
「中華人民共和国における法源」『法制史研究』40 1991
「中華人民共和国法制資料」滋賀秀三編『中国法制史 基本資料の研究』東京大学出版会 1993

ほか7点

過去2年間の研究業績

「中華人民共和国における紛争と紛争解決」『立命館国際研究』8巻1～4・9巻1～4 1995～97

「中国の法制度を調べる」佐藤誠編『地域研究調査法を学ぶ人のために』世界思想社 1996

ほか3点

本学以外での教育活動

立命館大学国際関係学部及び全学副専攻（1996年度。但し前任校）、関西大学法学部（1996年度）

宮嶋 博史 みやじま ひろし

略 歴

1948年10月生。1972京大・文・史学卒，1974京大大学院・東洋史・修士課程終了，1977同博士課程退学，1979東海大学文学部専任講師，1981都立大人文学部助教授，1983東文研助教授，1992同教授，1991ソウル大学校経済研究所研究員（1992まで）。

研究活動の概要

朝鮮の李朝期から植民地期にかけての、農村経済を中心とした社会経済史的研究を主たる研究テーマとしている。現在は量案・戸籍大帳・徴税文書・土地台帳等の各種帳簿資料の研究を進めている。

過去の主要業績（1996.3まで）

『近代朝鮮水利組合の研究』（共著）日本評論社 1992

『兩班（ヤンバン）』中央公論社 1995

『アジアから考える6 長期社会変動』（編著）東京大学出版会 1994

ほか多数

過去2年間の研究業績

「光武量案と土地台帳の比較分析」（韓国文）金鴻植ほか『朝鮮土地調査事業の研究』民音社 1997

本学以外での教育活動

東洋大学文学部（1996・97年度）、川村学園女子大学文学部（1996年度）、千葉大学文学部（1997年度）、京都大学文学部（1997年度）

黒田 明伸 くらだ あきのぶ (1997.10 配置換着任)

略 歴

1958.2 生。1980 京都大学文学部卒，1982 修士（文学・京都大学），1995 博士（経済学・京都大学）。1986 京都大学助手，1987 大阪教育大学講師，1989 名古屋大学助教授，1997.10 東洋文化研究所助教授。

研究の概要

伝統中国の貨幣・金融・市場構造・財政，ならびにそれらについての日本・朝鮮・インド・ヨーロッパとの比較史，16世紀以降の世界経済とアジア諸帝国との相互連関，地域流動性あるいは支払協同体の理論についての研究。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会 1994

「清代銀錢二貨制の構造とその崩壊」『社会経済史学』57-2 1991.7

「二〇世紀初期太原県にみる地域経済の原基」『東洋史研究』54-4 1996.3

過去2年間の研究業績

「16・7世紀環シナ海経済と錢貨流通」『歴史学研究』711 1998.6

「伝統市場の重層性と制度的枠組——中国・インド・西欧の比較」『社会経済史学』64-2 1998.7

ほか4点

学外活動

東洋史研究会，歴史学研究会，社会経済史学会

平勢 隆郎 ひらせ たかお

略 歴

1954.8 生。1979 東大・文・東洋史卒，1981 東大大学院人文・東洋史・修士過程修了，鳥取大学教育学部助手，同専任講師，同助教授，九州大学文学部助教授を経て，1992年より現職。

研究活動の概要

中国史上の大変革期である春秋戦国時代の歴史的性格は何かを一貫して追求してきている。この時代は，史料批判が他の時代に比較してより特殊な位置づけをもつので，考古史料の活用が不可欠となる。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「楚王と梟君」『史学雑誌』90-2 1981

『新編 史記東周年表——中國古代紀年の研究序章』(東洋文化研究所叢刊15輯)

東京大学東洋文化研究所 東京大学出版会 1995

『中國古代紀年の研究——天文と曆の検討から』(東洋文化研究所叢刊17輯)

東京大学東洋文化研究所 汲古書院 1996 ほか

過去2年間の研究業績

岩波講座『世界歴史3・中華の形成と東方世界』(共著) 岩波書店 1998

「試論西周紀年」(中国語に翻訳。北京師範大学国学研究所編『武王克殷之年研究』) 北京師範大学出版社 1997

本学以外での教育活動

慶応義塾大学文学部 (1996・97年度), 東京学芸大学 (1997年度)

学外活動

史学会, 日本甲骨学会, 中国出土資料学会, 社会文化学会, 九州史学会, 東洋史研究会, 東方学会, 日本中国考古学会, 島根考古学会, 歴史学研究会, 書学書道史学会

吉開 将人 よしかい まさと

略 歴

1967.7 生。1990 東大・文・考古学卒, 1993 東大大学院・人文科学・考古学・修士課程修了, 同年同博士課程進学, 同年, 中国北京大学留学, 1994 帰国, 1995 東大大学院博士課程退学, 同年東文研助手, 1996 香港大学 CAS 派遣, 同年帰国。

研究活動の概要

周辺世界との関わりのなかで中国文明形成の道程をあとづけるために, 統一帝国の成立期にあたる戦国～漢代を中心に, 中国内地からベトナムにかけて出土する各種遺物の研究を進めている。最近はまだ博物館・文化財制度のありかたにも関心を寄せ, そこから中国社会の変動を読み取ろうとしている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「論T字玉環」『南中國及鄰近地區古文化研究』香港中文大学出版社 1994.2

「ドンソン系銅盃の研究」『考古学雑誌』80-3 1995.2

「先秦期における単字模鑄造法について——曾侯乙墓出土青銅器群を中心に」

『東文研紀要』129 1996.2

ほか2点

過去2年間の研究業績

「副葬品が語るもの——東アジア世界の中の南越文化」『中国・南越王の至宝』

毎日新聞社 1996.5

「銅鼓「再編」の時代——一千年紀のベトナム・南中国」『東洋文化』78 1998.3

ほか2点

学外活動

日本中国考古学会（幹事）、東南アジア考古学会（幹事）、日本考古学会、考古学研究会、史学会、日本秦漢史研究会

東アジア部門（第二）

蜂屋 邦夫 はちや くに お

略 歴

1938.11 生。1963 東大・教養卒、1965 同大学院・人文・比較文化・修士過程修了、1968 同博士過程満期退学、1993 博士（文学・東大）。1968 東文研助手、1974 同助教、1987 同教授、1990.3～12 中国北京大学にて文部省在外研究。

研究活動の概要

中国宗教思想史を専攻し、六朝における仏教受容の問題、儒教經典の解読などを行ってきた。1985年以降は大陸道教の現地調査を実施し、並行して初期全真教の歴史と教理について分析研究し、多くの成果を出版した。

過去の主要業績（1996.3まで）

編『中国道教の現状——道士・道協・道観』本文冊・図版冊 東文研叢刊
1990

『金代道教の研究——王重陽と馬丹陽』東文研紀要別冊 1992

編著『中国の道教——その活動と道観の現状』本文冊・図版冊 東文研叢刊
1995

ほか約130点

過去2年間の研究業績

『中国思想とは何だろうか』河出書房新社 1996

『孔子 中国の知的源流』 講談社 1997

ほか5点

本学以外での教育活動

立教大学文学部 (1996年度), 大東文化大学大学院文学研究科 (1996年度)

学外活動

日本中国学会, 日本道教学会 (評議員, 1996.2~), 中国社会文化学会, 六朝
学術学会 (理事, 1997.8~)

丘山 新 おかやま はじめ

略 歴

1948.6生。1972京大・理・物理学卒, 1976東大大学院人文・印哲・修士課程
修了, 1979財団法人東方研究会専任研究員, 1980中国北京大学留学 (~1982),
1986日大文理学部専任講師, 1990東文研助教授, 1992.3ミュンヘン大学客員研
究員 (~1993.2) を経て, 1994年より東文研教授。

研究活動の概要

(1) 中国の仏教をインド仏教とは異質な思想として, また教理学・教理史とし
てではなく中国宗教思想史のなかに位置づける。(2) 仏教思想を資料として独自の
宗教哲学理論を構築する。

過去の主要業績 (1996.3まで)

「閉じられた自己」から「開かれゆく自己」へ——仏教における自己と他者」
『東文研紀要』117 1992

「漢訳仏典と漢字文化圏」『東アジア社会と仏教文化』春秋社 1996

『定本中国仏教史 I・II・III』(翻訳) 柏書房 1992・94

過去2年間の研究業績

『現代語訳 阿含経典 I・II』(翻訳) 平川出版 1996・98

「訳経」「法界」「理/事」「唯心論」「菩提心」岩波書店『哲学・思想事典』
1998

ほか6点

本学以外での教育活動

明治大学文学部 (1996年度), 上智大学文学部 (1997年度), 東京都立大学人
文学部 (1997年度)

学外活動

東方学会（論文目録編集委員）、日本印度学仏教学会、東西宗教交流学会、日
仏東洋学会、国立民族学博物館共同研究員

鈴木 隆泰 すずき たかやす

略 歴

1964. 7 生。1989 東大・工・精密機械工学科卒、1992 東大・文・印哲卒、1995
東大大学院人文・印哲印文・修士課程修了、1996 同大学院人文社会・インド文
学インド哲学仏教学・博士課程退学、同年東文研助手。

研究活動の概要

多種の異言語文献を用いての対照研究によって、インド大乘仏教經典の成立史・
思想史の解明を目指す。現在「如来常住」をテーマに思想の系譜を辿っており、
上記方法論を用いた經典史解明のケーススタディとなることを期している。

過去の主要業績（1996. 3 まで）

『大法鼓経』の研究序説——構成、及び経題に関して』『仏教文化』35 1996

過去2年間の研究業績

“The *Mahāmeghasūtra* as an origin of an interpolated part of the present
Suvarṇaprabhāsa,” *JIBS* 89, 1996.

『如来常住經典としての『大法鼓経』』『仏教文化研究論集』1 1997

ほか5点

学外活動

日本印度学仏教学会

丸尾 常喜 まるお つねき（1997. 3 退職）

略 歴

1937. 3 生。1962 東大・文・中文卒、同年大阪市立大大学院文学・修士課程入
学、1965 同中退。1992 博士（文学・東大）。1962 私立啓光学園中・高校教諭、
1964 熊本県立人吉高校教諭、1968 北大文学部助手、1973 同助教授、1990 東文研
教授、1992～1995 文学部併任教授、1997 停年退職。現大東文化大学 外国語学部
教授。

研究活動の概要

中国現代文学特に魯迅の研究：魯迅文学の展開の軸となる思想的心理的な契機と論理、魯迅文学が把えた中国伝統社会の様相とその文学的方法などの解明を目指し、特に諸作品の連関に注目する作品論的研究を中心に研究活動を進める。

過去の主要業績（1996.3まで）

『魯迅——花のため腐草となる』集英社 1985

『中国小説の歴史の変遷——魯迅による中国小説史入門』（訳注）凱風社 1987

『魯迅——「人」「鬼」の葛藤』岩波書店 1993

ほか多数

過去2年間の研究業績（1997.3まで）

「談魯迅的文学（演講二篇）」（中国語）『東文研紀要』131 1996

『魯迅『野草』の研究』東洋文化研究所研究報告 東洋文化研究所 汲古書院
1997

ほか4点

本学以外での教育活動

二松学舎大学大学院文学研究科（1996年度）、大阪市立大学大学院文学研究科（1996年度）、富山大学人文学部（1996年度）

学外活動

日本中国学会（理事・学術専門委員）、東方学会（評議員・編集委員）、中国社会文化学会、現代中国学会

尾崎 文昭 おざき ふみあき

略 歴

1947.2生。1972 東大文・中文卒、1975 修士（中文・東大院）、1979 同博士課程退学、1979 東大文学部助手、1980 中国・北京大学留学、1983 帰国し退職、1985 明治大学文学部専任講師・同助教授を経て、1996年より現職。

研究活動の概要

第一に、「五・四」退潮期（1920～25）を中心とする中国現代文学史研究を主テーマとし、第二に、同時期の魯迅・周作人兄弟の文学思想を分析してきた。特に近年は、1980-90年代の思想文化また文学についても関心をはらってきた。

過去の主要業績（1996.3まで）

「陳独秀と別れるに至った周作人——1922年非基督教運動の中での衝突を中心

に』『日本中国学会報』35 1983

「周作人の新村提唱とその波紋（上/下）」『明治大学教養論集』207/237 1988/
1991

「魯迅の『多疑』思惟方式についての試論」『魯迅研究の現在』汲古書院 1992
ほか10点

過去2年間の研究業績

「『酒楼にて』および小説集『彷徨』『しにか』7-11 1996.11

本学以外での教育活動

明治大学文学部（1996・97年度）

学外活動

中国社会文化学会（理事・学会誌編集担当）、日本中国学会

巖 鋒 いえん ふおん（1998.4採用）

略 歴

1964.7生。1986中国上海・復旦大・中文卒、1994博士（中文・復旦大）。
1994復旦大中文学部講師、1998東文研助教授。

研究活動の概要

1930年代中国文学の比較文学的方法による研究。また、海外文学理論の1980年代における受容過程およびそれが文学と文学批評に与えた影響について研究している。

過去の主要業績（1996.3まで）

「劉索拉与海勅」『小説評論』1990年2期

「結構主義在中国（中国における構造主義）」『上海文論』1992年3期

「伝播与策略：西方現代派文学在新時期的初期訳介（受容と方策：新時期初期における西洋現代派文学の翻訳と紹介）」『中国比較文学』1994年1期

ほか9点

過去2年間の研究業績

『現代話語（ディスコース）』山東友誼出版社 1997

編訳：フーコー原著『権力的眼睛：米歇爾・福柯訪談録（権力の眼：ミシェルフーコーインタビュー集）』上海人民出版社 1996

笠井 直美 かさい なおみ (1997.4 昇任転出)

略 歴

1965.11 生。1987 中国・山東大学留学 (88 まで), 1989 東大文卒, 1991 修士 (文学・東大)。1992 学術振興会特別研究員 (1993 まで), 1993 東文研助手, 1994 在外研究 (北京大学等, 1995 まで), 1997 名古屋大学言語文化部講師。

研究活動の概要

前近代中国における「正しさ」や「秩序」に関わる物の見方, 考え方について, 中国俗文学 (小説, 戯曲, 説唱, 語り物等, これまでは特に小説『水滸伝』・講史 (歴史物) 小説とその関連物) を主要な材料として考察を進めている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『義賊』の誕生— 雑劇『水滸』から小説『水滸』へ 『東洋文化』71 1990

『金陵世徳堂刊『水滸記』について』 『東方学』83 1992.11

『隠蔽されたもう一つの『忠義』— 『水滸伝』の『忠義』をめぐる論議に関する一視点』 『日本中国学会報』44 集 1992.10

ほか 2 点

過去 2 年間の研究業績 (1996.3 まで)

『李宗侗 (玄伯) 旧蔵『忠義水滸傳』』 『東文研紀要』 131 1996.11

『二帝各叙宗祖』— 元明の三國故事の通俗文藝における君臣秩序に関わる叙述』 『名古屋大学言語文化部論集』19-2 1998.3

ほか 3 点

本学以外での教育活動

東海大学文学部 (1996 年度), 名古屋大学言語文化部 (1997 年度より)

学外活動

日本中国学会, 東方学会, 中国社会文化学会

小川 裕充 おがわ ひろみつ

略 歴

1948.10 生, 1973 東大教養卒, 1977 修士 (文学・東大)。1979 東文研助手, 1982 東北大学文学部助教授, 1987 東文研助教授, 1992 東文研教授。その間, ハイデルベルク大学客員教授, 北京日本学術研究センター客員教授を歴任。

研究活動の概要

私的には、山水画における構成の伝承の問題など、中国絵画を中心とする古代中世東アジア絵画史を研究し、公的には、20万点に及ぶ世界的な中国絵画写真資料の維持・拡大を計り、現在は『中国絵画総合図録 続編』を刊行中である。

過去の主要業績 (1996.3まで)

「院中の名画——董羽・巨然・燕肅から郭熙まで」『鈴木敬先生還暦記念 中国絵画史論集』吉川弘文館 1981

「大仙院方丈襖絵考 (上)(中)(下)」『国華』1120・1121・1122 1989

「相国寺蔵 文正筆 鳴鶴図(対幅) (上)(中)(下)」『国華』1166・1181・1182 1993・94

ほか 30点

過去2年間の研究業績

“The Continuity of Spatial Composition in Sung and Yuan Landscape Painting,” in M. K. Hearn & J. G. Smith ed., *Arts of the Sung and Yuan*, New York: The Metropolitan Museum of Art, 1966.

『中国絵画総合図録 続編』第1巻 アメリカ・カナダ編, 第2巻 アジア・ヨーロッパ編, 東京大学出版会 1998

ほか 34点

本学以外での教育活動

東北大学大学院文学研究科・文学部 (1997年度)

学外活動

美術史学会 (常任委員), 東方学会 (評議員), 美学会, 文化財保存修復学会, 密教図像学会

南アジア部門

加納 啓良 かのう ひろよし

略歴

1948. 3生。1970 東大経卒, 1990 経済学博士 (東大)。1971 アジア経済研究所入所, 1980 東文研助教授を経て, 1991年より同教授。

研究活動の概要

ジャワの農村地域を中心に、インドネシア経済の歴史と現状を、東南アジアの他の国々や日本、台湾などの場合と比較しつつ研究してきた。また、国際経済的な視野から東南アジアの貿易構造の歴史的变化にも関心をもち始めている。

過去の主要業績（1996.3まで）

『バグララン——東部ジャワ農村の富と貧困』アジア経済研究所 1979

『インドネシア農村経済論』勁草書房 1988

『中部ジャワ農村の経済変容——チョマル郡の85年』（編著）東文研叢刊 東京大学出版会 1994

ほか多数

過去2年間の研究業績

「植民地期ジャワの地租制度」水野広祐・重富真一編『東南アジアの経済開発と土地制度』アジア経済研究所 1997.3

「植民地期インドネシアの貿易統計 1909～1923年——相手国別品目別データの編纂」一橋大学経済研究所中核的拠点形成プロジェクト Discussion Paper No. D87-26 1998.2

ほか23点

本学以外での教育活動

獨協大学法学部（1997年度）

学外活動

アジア政経学会（理事）、東南アジア史学会、京都大学東南アジア研究センター学外研究協力者（1996.4～98.3）、国立民族学博物館共同研究員（1996.4～98.3）、国際協力事業団「地域の発展と政府の役割」分野別援助研究会委員（1996.4～97.3）、国際協力事業団「インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発計画」国内委員会委員（1997.4～98.3）、国際協力事業団短期派遣専門家（インドネシア大学日本研究センターに係る技術指導）（1997.4～97.8）、国際協力事業団「日本研究センターに係る国内支援委員会」委員（1997.6～98.3）、日本インドネシアNGOネットワーク（代表）

高橋 昭雄 たかはし あきお

略歴

1957.4生。1981京大経卒、1993博士（経済学・京大）。1981アジア経済研究

所入所, 1986 ラングーン外国語学院留学 (1988 まで), 1993 ミャンマー農業省
農業計画局客員研究員 (1995 まで), 1996 アジア経済研究所退職, 同年東文研助
教授。

研究活動の概要

ミャンマーの農村地域を中心に社会経済の歴史と現状に関する研究を行ってきた。現在は, 植民地経済, 社会主義経済, 市場経済等の「経済体制」と農村社会
経済の変容との関係について, 文献資料の分析と実態調査の二つの方向から研究
を進めている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『ビルマ・デルタの米作村: 「社会主義」体制下の農村経済』(研究双書 423)

アジア経済研究所 1992

「上ビルマ・チャウセー地方の河川灌漑と農業」『アジア経済』34-12 1993. 12

「上ビルマ農村の農外就業と階層構造: 社会主義末期の一灌漑村を事例として」

水野広祐編『東南アジア農村の就業構造』アジア経済研究所 1995. 3

ほか多数

過去2年間の研究業績

「市場経済化とミャンマーの米穀増産政策」石原・内田・篠田・田島編『開発
途上諸国の経済発展と社会変動』緑蔭書房 1997. 10

「ミャンマーにおける農村間世帯移動と職業階層」『アジア経済』38-11 1997. 11

ほか5点

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部 (1997 年度)

学外活動

アジア政経学会, 東南アジア史学会, 進化経済学会

柳澤 悠 やなぎさわ はるか

略 歴

1944. 11 生。1967 東大・経卒, 1970 東大大学院経済・応用経済学専攻・修士
課程修了 (経済学修士)。1972 同博士課程退学, 1993 博士 (経済学)。1972 年横
浜市立大学文理学部専任講師, 同助教授, 1983 年東京大学東洋文化研究所助
教授, 1989 年より同教授。1976 年に在外研究 (英国)。

研究活動の概要

近現代インド経済史を専攻し、19世紀半ば以降の南インドの農業・農村構造の歴史の変動を農業労働者など下層民に焦点を当てて検討してきた。手織物業など在手工業や農村小工業についても考察してきた。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

Socio-economic Changes in a Village in the Paddy Cultivating Area in South India, Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), 1985.

『南インド社会経済史研究』(東京大学東洋文化研究所) 東京大学出版会 1991
“The Handloom Industry and Its Market Structure: The Case of the Madras Presidency in the First Half of the Twentieth Century,” *Indian Economic and Social History Review* 30-1, 1993.

ほか約60点

過去2年間の研究業績

A Century of Change: Caste and Irrigated Lands in Tamilnadu, 1860s to 1970s, Delhi: Manohar, 1996.

“Changes in the Agrarian Structure of Unirrigated Areas in Tamilnadu, 1860s to 1920s,” K. A. Manikumar ed., *History and Society: Essays in Honour of Professor S. Kadhivel*, Madurai, 1996.

ほか5点

学外活動

日本南アジア学会(理事, 常務理事), 国際経済学会, 土地制度史学会, アジア政経学会, 社会経済史学会, 歴史学研究会, 東方学会

中里 成章 なかざと なりあき

略 歴

1946.12 生。1972 東大・文・東洋史卒。1987 博士 Ph.D. (カルカッタ大)。1977 東文研助手, 1987 (財) 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター調査資料室長, 1988 神戸大学文学部助教授, 1994 東文研教授。1993 ロンドン大学 SOAS 客員研究員。

研究活動の概要

植民地支配期インドの社会経済史, とくにベンガル地方の農村史を中心に研究

を行ってきた。現在は、インド・パキスタン分離独立の社会経済的背景を説明する仕事に取り組んでいる。

過去の主要業績（1996.3まで）

“Superior Peasants of Central Bengal and Their Land Management in the Late Nineteenth Century,”『南アジア研究』2 1991.

Agrarian System in Eastern Bengal c.1870-1910, Calcutta : K. P. Pagchi, 1994.

“Regional Pattern of Land Transfer in Late Colonial Bengal,” in Peter Robb et al. eds., *Local Agrarian Societies in Colonial India*, London : Curzon Press, 1996.

過去2年間の研究業績

「地域の重層性——ベンガルの場合」濱下武志・辛島昇編『地域の世界史1 地域史とは何か』山川出版社 1997

“The Origins of Development Planning in India,” in Fumiko Oshikawa, ed., *South Asia under the Economic Reforms*, JCAS Symposium Series No. 6, Japan Center for Area Studies, National Museum of Ethnology, Osaka, 1998.

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部（1996・97年度）、東京女子大学文理学部（1996年度）

学外活動

日本南アジア学会（理事・編集委員長）、Indian History Congress, Asiatic Society of Bangladesh, 国立民族学博物館共同研究員

井坂 理穂 いさか りほ

略 歴

1969.8生。1992 東大・教養・教養卒、1994 東大大学院総合文化・地域文化・修士課程修了、同年東大大学院総合文化・地域文化・博士課程入学、1995 東大大学院総合文化・地域文化・博士課程退学、同年東文研助手。

研究活動の概要

植民地期の西インドにおける政治・社会史を扱っている。特に19世紀後半の都市中間層の社会・文化活動の分析を通して、彼らの「国家」像、及びアイデンティティのあり方を明らかにすることを目指している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「インド独立と藩王国の統合——藩王国省のハイダラーバード政策」『アジア経済』36-3 1995

過去2年間の研究業績

「インド・パキスタン分離独立——中央の論理・地方の論理」『岩波講座世界歴史』24 1998 (出版予定)

学外活動

日本南アジア学会, 南アジア研究会, 東方学会, 東京外国語大学・AA 研共同研究員 (1997-1999), 国立民族学博物館共同研究員 (1998-1999)

上村 勝彦 からむら かつひこ

略 歴

1944.3 生。1967 東大文卒, 1970 東大大学院人文修士課程修了, 1988 博士 (文学・東大)。1971 東大文学部助手 (1973 まで), 1973 東方研究会研究員 (1978 まで), 1978 國學院大学講師, 1980 同助教授 (1986 まで), 1986 東文研助教授, 1989 同教授 (現在に至る)。

研究活動の概要

目下, 10 世紀のカシミールの詩論家アーナンダヴァルダナの『ドゥヴァニ・アーローカ』の研究論文を準備している。本年度中に刊行される予定である。また, 以前から大叙事詩『マハーバーラタ』の翻訳と研究に従事している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

『カウティリヤ実利論』(訳)(上・下) 岩波文庫 1984

『インド古典演劇論における美的経験——アビナヴァグプタの rasa 論』東文研報告 1990

『ニーティサーラ——古典インドの政略論』(訳) 東洋文庫 553 1992

ほか多数

過去2年間の研究業績

「詩的靈感 (pratibhā) について」『インド思想と仏教文化』春秋社 1996.12

『バガヴァッド・ギーターの世界』NHK ライブラリー 1998.1

ほか 2 点

本学以外での教育活動

北海道大学文学部 (1997 年度)

学外活動

日本印度学仏教学会（評議員）、日本仏教学会、東方学会（評議員）、日本南アジア学会、仏教思想学会（評議員）、インド思想史学会（理事）

永ノ尾 信悟 えいのお しんご

略 歴

1948. 7 生。1971 京大文卒、1986 Ph. D.（マールブルク大）。1980 九州東海大学講師（1984 まで）、1984 国立民族学博物館助手、1987. 12 国立民族学博物館助教授、1991 東文研助教授、1994 同教授。

研究活動の概要

ヒンドゥー儀礼の形成と展開に関して、ヴェーダ後期文献からプラーナ文献を中心に研究。また、北インドの農村の低カーストの儀礼の歌の採集と分析を行う。

過去の主要業績（1996. 3 まで）

Die Cāturmāsya oder die altindischen Tertialopfer. Dargestellt nach den Vorschriften der Brāhmaṇas und der Śrautasūtras, Tokyo: Institute for the Study of Languages and Culture of Asia and Africa, 1988.

“The Nāgapañcamī as described in the Purāṇas and its Treatment in the Dharmanibandhas,” *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies* 6, 1994.

『ヒンドゥー教年中儀礼の形成——ティティと神格の結びつきをめぐって』
Monumenta Serindica no. 26, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1995

ほか 16 点

過去 2 年間の研究業績

“The Formation of the Pūjā Ceremony,” *Studien zur Indologie und Iranistik* 20, 1996.

ほか 2 点

本学以外での教育活動

中央大学（1996・97 年度）

学会活動

日本印度・仏教学会、日本民族学会、日本南アジア学会（常務理事・編集委員長 1996 年度）、東方学会

西アジア部門

鈴木 董 すずき ただし

略 歴

1947.9 生。1970 東大・法卒，1972 東大大学院法学・政治・修士課程修了，同年トルコ国・イスタンブール大学留学（1975 まで），1979 東大大学院博士課程退学，同年学術振興会奨励研究員，1980 立大法学部助手，1982 同退職，同年千葉大学教養部等非常勤講師，同年東大大学院法学・政治・博士課程修了，法学博士（東大）。1983 東文研助教授，1991 同教授。

研究活動の概要

研究対象は，西アジア地域であり，オスマン帝国を中心に，イスラム世界における，1) 政治体の支配組織と支配エリート，2) 世界秩序・政治的統合・アイデンティティ，3) 文化と社会の特質の3分野にわたる。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『オスマン帝国の権力とエリート』東京大学出版会 1993

『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』リプロポート 1993

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（1）～（3）」『東文研紀要』101・103・106 1986-88

過去2年間の研究業績

『オスマン帝国とイスラム世界』東京大学出版会 1997

「イスラム帝国の交渉行動——オスマン帝国の場合」木村汎編『国際交渉学——交渉行動様式の国際比較』勁草書房 1998

ほか11点

本学以外での教育活動

慶応義塾大学大学院文学研究科（1996年度），慶応義塾大学文学部（1996年度），青山学院大学国際政治経済学部（1996年度），横浜市立大学大学院国際文化研究科（1996・1997年度）

学外活動

国際日本文化研究センター共同研究員，比較法史学会理事，地中海学会常任委員，日本オリエント学会（理事，『オリエント』編集委員），日本中東学会評議員，日本国際政治学会評議員

長澤 榮治 ながさわ えいじ

略 歴

1953.4 生。東大・経卒，1976 アジア経済研究所入所，1981 エジプト派遣（1983 まで）1995 アジア経済研究所退職，同年東文研助教授，1998 東文研教授。

研究活動の概要

エジプトを中心に近現代アラブの社会経済史研究に取り組む。主要な研究テーマは，エジプトの綿花経済と農業労働，灌漑制度，労働移動と社会的連帯，農村の権力構造，農業資本主義論争，現代アラブ思想などである。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『東アラブ社会変容の構図』（編著）アジア経済研究所 1990

『中東 政治・社会』〈地域研究シリーズ第 10 巻〉（編著）アジア経済研究所 1991

『世界綿業の展開とエジプト農村の労働力問題』『世界の構造化』〈シリーズ世界史を問う第 10 巻〉岩波書店 1991

ほか多数

過去 2 年間の研究業績

「エジプト人ユダヤ教徒とマルクス主義運動——アハマド・サーディク・サアド研究（1）」『一橋論叢』116-4 1996.10

「エジプトの中央集権性——ガマール・ヒムダーン著『エジプトの個性』をめぐって」後藤晃・鈴木均編『中東における中央権力と地域性——イランとエジプト』アジア経済研究所（研究双書 479）1997.3

ほか 11 点

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部（1996・97 年度），慶応義塾大学文学部（1996・97 年度）

学外活動

日本中東学会（評議員），日本イスラム協会，日本オリエント学会，国立民族学博物館共同研究員

松谷 敏雄 まつたに としお (1997.3 退職)

略 歴

1937年3月生。1961 東大・教養・教養卒, 1963 東大大学院生物・人類学・修士課程修了, 文学修士。1965 同博士課程退学, 1965 東文研助手, 1972 同専任講師, 1974 同助教授, 1984 同教授, 1992 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長 (1994 まで), 1997 停年退職, 同年東大名誉教授。

研究活動の概要

1964年イラク・イランでの発掘調査に参加して以来, 両国で考古学的発掘に従事した。1985年から自ら調査団を組織し, シリアのカシュカショク II 号丘, コサック・シャマリの2つの遺跡の発掘調査を実施した。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「初期農耕村落の研究」『東文研紀要』47 1967

「ピゼとチネ」『東文研紀要』58 1972

編 *Tell Kashkashok : The Excavations at Tell No. II*, 1991.

ほか 38 点

過去2年間の研究業績 (1996.3 まで)

西秋良宏と共著「シリアの先史時代遺跡, テル・コサック・シャマリの調査 (1993-1994 年)」松本健編『平成6年度西アジア史研究のデータベース化に関する総合的研究—第2回西アジア発掘調査報告書』クバプロ 1996

“The Functions of Bedrock Pits from Pottery Neolithic Sites in North Mesopotamia,” co-author, Y. Nishiaki, *Subartu* IV, 1996.

学外活動

日本オリエント学会, 日本学術会議・東洋学連絡委員会委員, 古代オリエント博物館評議員

羽田 正 はねだ まさし

略 歴

1953.7 生。1976 京大・文・史学卒, 1978 京大大学院文学・東洋史・修士課程修了, 1983 イラン学第3期博士 (バリ第3大)。1984 学術振興会奨励研究員, 1985 学術振興会特別研究員, 1986 京都橘女子大学文学部助教授, 1989 東文研助教授, 1997 東文研教授。

研究活動の概要

ペルシア語史料を用いたイラン世界の政治史、制度史、都市史研究、イスラム建築史の研究、それに欧文ペルシア旅行記研究やヨーロッパとペルシアの関係史研究などが主要なテーマである。

過去の主要業績（1996.3まで）

Islamic Urban Studies: Historical Review and Perspectives (co-editor), London: Kegan Paul International Ltd., 1994.

『モスクが語るイスラム史：建築と政治権力』中央公論社 1994

『シャルダン『イスファハーン誌』研究——17世紀イスラム圏都市の肖像』東文研叢刊 東京大学出版会 1996

ほか多数

過去2年間の研究業績

“Emigration of Iranian Elites to India during the 16-18th centuries,” *Cahiers d'Asie Centrale* 3-4, 1997.

『成熟のイスラーム社会』（永田雄三と共著）中央公論社 1998

ほか10点

本学以外の教育活動

立教大学文学部（1997年度）、お茶の水女子大学文教育学部（1997年度）

学外活動

日本中東学会（評議員）、日本イスラム協会（評議員）、日本オリエント学会、史学会、東洋史研究会、西南アジア研究会、内陸アジア史学会（常務理事）、日仏東洋学会（評議員）、Société asiatique, Association pour l'avancement des études iraniennes、東京外国語大学・A A研共同研究員、国立民族学博物館共同研究員

山中 由里子 やまなか ゆりこ（1998.3 配置換転出）

略 歴

1966.1 生。1988 米国・カラマズー大学・仏語/美術卒、1991 東大大学院総合文化・比較文学比較文化・修士課程修了、同年東大大学院総合文化・比較文学比較文化・博士課程入学、同年学術振興会特別研究員（1993 まで）、1993 東大大学院総合文化・比較文学比較文化・博士課程退学、同年東文研助手、1998 国立民族学博物館助手。

研究活動の概要

パフラヴィー語・アラビア語・ペルシア語によるアレクサンドロス大王についての伝承の比較検討を通して、古代から中世、前イスラムからイスラム時代への転換期の中東の文学にみられる文化的シンクレティズムについて研究している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「都市の誕生と死—アレクサンドロス伝説におけるアレクサンドリアとベルセポリス(上)(下)」『比較文学研究』61-62 1992

“From Evil Destroyer to Islamic Hero: The transformation of Alexander the Great's image in Iran,”『日本中東学会年報』8 1993

「文明を支えた空間—都市と建築」板垣雄三監修・後藤明編『講座イスラーム世界2 文明としてのイスラーム』栄光教育文化研究所 1994

ほか4点

過去2年間の研究業績

「知恵の書の系譜—イスラーム世界の〈君主の鑑〉文学」『アラブ文学を学ぶ人のために』世界思想社 1998(印刷中)

学会発表《Ambiguïté d'image d'Alexandre chez Firdawsi》Congrès international: La figure d'Alexandre le Grand dans les traditions médiévales occidentales et proche-orientales, 1997. 11. 27-29, Paris.

ほか2点

教育活動

法政大学文学部(1997年度前期)

学外活動

東大比較文学会、日本比較文学会、国際比較文学会、日本中東学会、日本オリエント学会、Middle East Studies Association、国立民族学博物館共同研究員(1996.4-1998.3)

後藤 明 ごとう あきら

略 歴

1941.7生。1965 東大・文・東洋史卒、1967 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了、1967(財)東洋文庫研究生、1968(財)東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター研究員、1978 山形大学人文学部助教授、1986 同教授を経て、1987 東文研教授、1994 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長

を併任（1996 まで）。

研究活動の概要

イスラーム世界の歴史を、地球規模の人類史のなかに位置づける作業を継続して行い、その一環として、中東地域と東南アジア地域の関係を調査する研究会、「歴史のなかのイスラーム」を検討する研究グループなどを組織した。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『メッカ——イスラームの都市社会』中央公論社 1991

『事典 イスラームの都市性』（共編）亜紀書房 1992

『文明としてのイスラーム——講座イスラーム世界2』（編書）栄光教育文化研究所 1994

過去2年間の研究業績

『イスラーム世界史』放送大学教育振興会 1997

ほか7点

本学以外での教育活動

中央大学総合政策学部（1996・97年度）、放送大学（1996・97年度）、九州大学文学部（1996年度）、東京外国語大学（1997年度）

学外活動

（社）日本イスラム協会（理事長）、（社）日本オリエント学会（常務理事）、（社）中東調査会（理事）、日本中東学会（理事）、日本学術会議東洋学研究連絡委員会委員、国立民族学博物館地域研究企画交流センター運営委員、（財）東洋文庫兼任研究員、その他

鎌田 繁 かまだ しげる

略 歴

1951.3 生。1974 東大文卒、1976 修士（文学・東大）。1977 マッギル大学イスラーム学研究所留学（1982 まで）、1982 東大文助手（1984 まで）、1984 東文研助教授採用、1995 同教授昇任。

研究活動の概要

イスラームの神秘思想を中心に研究を行ってきた。現在はシーア派の神秘思想（イルファーン）の世界観・人間（靈魂）観を、文献資料に基づいて考察している。同時にクルアーンなどの聖典解釈の問題にも関心を拡げている。

過去の主要業績（1996.3まで）

『モッラー・サドラーの靈魂論——『真知をもつ者たちの靈業』校訂・訳注並びに序説』イスラム思想研究会 1984

“The First Being: Intellect (*'aql/khiradh*) as the Link between God's Command and Creation according to Abū Ya'qūb al-Sijistānī,”『東文研紀要』106 1988

「神秘主義とシーア・イマーム論の出会い——フェイド・カーシャーニーの完全人間論」鎌田繁・森秀樹編『超越と神秘——中国・インド・イスラームの思想世界』大明堂 1994

過去2年間の研究業績

「イスラム倫理」星野勉・三嶋輝夫・関根清三編『倫理思想辞典』山川出版社 1997

「不可知界への参入——モッラー・サドラーの聖典解釈論」市川裕・鎌田繁編『聖典と人間』大明堂 1998

ほか30点

本学以外での教育活動

信州大学教育システム研究開発センター（1996・97年度）、上智大学外国語学部（1996・97年度）、立教大学全学共通カリキュラム運営センター（1996年度）、立教大学文学部（1997年度）

学外活動

日本オリエント学会（理事・『オリエント』編集委員長）、日本宗教学会（評議員）、日本イスラム協会（評議員）、宝積比較宗教・文化研究所（理事）、宗教学研究所、国立民族学博物館共同研究員、東京大学出版会評議員（1997.4～1999.7）

森本 一夫 もりもと かずお

略 歴

1970.3生。1992 東京大学・文・東洋史卒、1995 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了、同年東大大学院人文社会・アジア文化研究・博士課程進学、1996 同退学、同年東文研助手、1996 イラン・イスラム共和国ゴム歴史専門図書館客員研究員。

研究活動の概要

イスラーム諸社会におけるサイイド・シャリーフ——預言者ムハンマドの子孫・近親者——に関する比較史的研究を課題としている。現在は特にイランに重点を置き、彼らの系譜文献を分析の対象としている。

過去の主要業績（1996.3まで）

「サイイド系譜文献——新史料類型の紹介」『アジア・アフリカ歴史社会研究』

1 1996

過去2年間の研究業績

「サイイド系譜学の成立（十・十一世紀）——系譜統制との関わりを中心に」

『史学雑誌』105-7 1996

“Shiklgīri-i ‘ilm-i ansāb-i Āl-i Abī Ṭālib dar qurūn-i chahārum wa panjum-i hijri,” *Majallah-i Dānishkadah-i Adabiyāt wa ‘Ulūm-i Insāni-i Dānishgāh-i Mashhad* 29-3/4 1376Kh./1998.

学外活動

史学会、日本中東学会、日本イスラム協会

研究機関研究員

熊谷 滋三 くまがい しげぞう (1997.3 任期満了)

略 歴

1963.1 生。1985 早大文卒，1987 早大大学院文学・東洋史・修士課程終了，1992 同・博士後期課程退学，同年早大文学部助手，1994 同退職，1996 東文研研究機関研究員，1997 同退職。

研究活動の概要

漢帝国は周辺異民族をどのようにして取り込んだのか，そのことが漢帝国の性格とどのように関わるのかを解明すべく，異民族を服属させる際の漢側の対応規定と方法を，異民族側の情勢をふまえながら，各時期ごとに研究している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「後漢の羌族内徙策について」『史滴』9 1988

「後漢の異民族統治における官爵授與について」『東方學』80 1990

「前漢における属国制の形成——「五属国」の問題を中心として」『史観』134
1996

過去2年間の研究業績

「前漢における「蠻夷降者」と「歸義蠻夷」」『東文研紀要』134 1997

本学以外での教育活動

東京成徳大学人文学部 (1996・1997 年度)，実践女子大学総合教育 (1996・97 年度)

学外活動

東方学会，東洋史研究会，日本秦漢史研究会，中国出土資料研究会，中国史学会

Werner, Christoph クリストフ・ヴェルナー (1997.3 任期満了)

略 歴

1967.6 生。1988 フライブルグ大学 (ドイツ，1990 まで)，1990 カイロ留学 (1991 まで)，1991 バンベルグ大学 (ドイツ) 転入，1993 テヘラン留学，1994 修士 (イラン学・バンベルグ大学)。1997.1～3 東文研研究機関研究員，1997.11 バ

ンベルグ大学イラン学科助手。

研究活動の概要

イラン北西部アゼルバイジャン地方の中心都市タブリーズにおける行政・宗教・経済界のエリートたちの社会構造と相互関係が、18世紀後半から19世紀前半にかけてどのように変化したかを、未公開の公文書の分析を通して探っている。

過去の主要業績 (1996.3まで)

学会発表 “The Tarikh wa jughrafi-yi dar al-saltana-yi Tabriz by Nadir Mirza Qajar - its value as a historical source,” *Les sources de l'histoire islamique medievale*, 1993.12, Paris.

“Ambiguity in Meaning: the wakil in 18th and early 19th century Iran,” *Third European Conference of Iranian Studies*, 1995.9 Cambridge (forthcoming publication in 1998 in the conference proceedings).

過去2年間の研究業績

“Eine Karriere in der Provinz: Mirzā Muḥammad Šafī Tabrīzī zwischen Nādir Šah und Karīm Hān Zand,” *Orientalia Suecana* 45-46, 1996-7, pp.147-177.

“The Amazon, the source of the Nile, and Tabriz,” in *Une tradition historiographique persane: les histoires locales*, ed., D. Aigle, C. Melville, Pembroke Papers, 1998 (in print).

ほか3点

本学以外での教育活動

バンベルグ大学イラン学科 (1995年)

学外活動

Middle East Studies Association, Society of Iranian Studies

小泉 龍人 こいずみ たつんど (1998.3 任期満了)

略 歴

1964.1 生。1988 早大・文・考古学卒，1990 早大大学院文学・考古学・修士課程修了，文学修士。1996 同博士後期課程退学，1993 早大文助手 (1996 まで)，1996 東文研研究機関研究員 (1998 まで)，1998 同非常勤講師。

研究活動の概要

東文研によるシリアでの考古学的発掘調査に取り組んできた。現在では、先史時代のウバイド文化における埋葬儀礼と土器生産という視点から、都市文明萌芽

に向けた社会構造の複雑化を、発掘調査と考古資料の比較分析により研究している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

"Artifacts from Layer 2," in T. Matsutani, ed., *Tell Kashkashok: The Excavations at Tell No. II*, (東文研報告), 1991.

"Ubaid Pottery from Kashkashok II: Typology and Chronology," *AL-RĀFIDĀN* 14, 1993.

"Chronology of Ubaid Tombs from Kashkashok II: Examination of tomb and pottery sequence," *AL-RĀFIDĀN* 17, 1996.

ほか数点

過去2年間の研究業績

「ウバイド文化における葬法——レンガ列を伴う墓の構造」『オリエント』40-1
1997

「テル・サラサート第二号丘の土器は語る——ウバイドからガウラへ」西秋良
宏編『精神のエクスペディション』(東京大学創立百二十周年記念東京大学
展/学問の過去・現在・未来/第二部), 東京大学 1997

ほか6点

本学以外での教育活動

早稲田大学文学部 (1996・97年度)

学外活動

日本西アジア考古学会 (総務), 日本オリエント学会

戸田 裕久 とだ ひろひさ (1997.7採用)

略 歴

1964.6生。1987 広島大・文・哲学卒, 1990 東大大学院人文・印哲印文・修士課程修了, 1995 同博士課程退学, 1990 インド・デリー大学留学 (1991まで)。1995 (財) 東方研究会専任研究員, 1996 立正大学非常勤講師, 1997 東文研研究機関研究員。

研究活動の概要

中世ヒンドゥー教の研究。インド哲学諸派が教理体系の整備を図った時期に独自の神学を確立したカシミール・シヴァ派の思想を主に研究。特に、再認識論の名で知られる神秘主義思想、実在的一元論の形成過程の解明を試みている。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「カシミール・シヴァヴァにおける jñānaśakti——バーッタ派ミーマーンサーの所説と対照して」『印度学仏教学研究』41-1 1992

「シヴァ一元論における志向作用——アヒナヴァグブタにおける vimarśa と pratyavamarśa の用法」『東京大学文学部インド哲学仏教学研究室・インド哲学仏教学研究』2 1994

「自然法則に反する事例——カシミール・シヴァ派のヨーガ観に関する一考察」『東方』11 1995

過去2年間の研究業績

“udaya and pralaya in the Spanda-śāstra,” *Journal of Indian and Buddhist Studies: Indogaku Bukkyogaku Kenkyu* 45-2, 1997.

“An Instance of Syncretism of the Spanda-and Pratyabhijñā-systems,” *Studies of Buddhist Culture: Bukkyo Bunka Kenkyu Ronshu* 1, 1997.

本学以外での教育活動

立正大学経営学部・仏教学部 (1996・97年度)

学外活動

(財) 東方研究会 (研究嘱託), 日本印度学仏教学会, Bhandarkar Oriental Research Institute, Pune

菊地 達也 きくち たつや (1998.4 採用)

略 歴

1969.9 生。1992 東大・文・イスラム学卒, 1994 東大大学院人文・イスラム学・修士課程修了, 同年東大大学院人文社会・アジア文化研究・博士課程進学, 1998 同修了, 同年東文研研究機関研究員。

研究活動の概要

10-11 世紀のイスマール派運動の原動力になった終末論の様態, 彼らの終末論的正当性を支える宇宙論, イスラーム哲学との関係を中心に, シーア・イスマール派の思想史を主に研究している。

過去の主要業績 (1996.3 まで)

「ハミードウッディーン・キルマーニーの知性論」『オリエント』38-1 1995

「ファティマ朝期イスマール派終末論の変容——ハミードウッディーン・キルマーニーの役割と意義」『オリエント』41-1 1998

学外活動

日本オリエント学会, 日本イスラム協会

IX 附属東洋学文献センター

東洋文化研究所附属東洋学文献センター（以下、本文献センターと略す）は、東洋学に関する文献・情報の収集と国内外の研究者に対する各種のドキュメンテーション・サービスを目的として1966年（昭和41年）に設置された。以来、アジア研究のための基本資料（中国・朝鮮関係図書、中国新聞・雑誌の影印本類、アラビア語写本蒐書「ダイバーコレクション」などアジア諸地域の文献、新聞）の収集を積極的に行い、これと並行して『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』、『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』、1997年度末までに合計88輯を数える『東洋学文献センター叢刊』の刊行などのドキュメンテーション・サービス活動を進めてきた。その他、毎年、全国各地の図書館の漢籍担当職員に対して研修を実施し、漢籍所在調査、漢籍貴重書複本化作業などを行っている。

近年、本文献センターの情報サービス活動に対する要請はますます多様化しており、国内・国外におけるアジア研究資料の所在調査、多言語資料の参考書類の作成や文字文献以外の資料への対象拡張とともに、情報検索システムの作成と長期的展望に基く資料調査を遂行する必要がある。この第一段階として本文献センターは1993年度以来、本研究所所蔵現代中国書（約4万点）のデータベース化を行ってきた。このデータファイルは冊子体として1996年度に刊行したほか、1997年度よりWWWサービスを用いたインターネットによる共同利用を開始した。以下に本文献センターの現状と展望を述べる。

1. データベースサービス

1.1. 現代中国書データベースのWWWサービス

現代中国書は、全国の大学図書館をはじめ諸研究機関に急増し続けている。一方、その冊子体目録は全国的にみても少ない状況にある。そこで、国内に急増している現代中国書の目録情報サービスを可能にする第1段階として、本文献センターは、本研究所所蔵の現代中国書（1990年度までに受入れた約4万点）のデー

データベース化及び冊子体目録の作成を行ってきた。1996年度には電字本として『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録・索引』を刊行した。

本年度には本文献センターが管理するWebサーバを用いて、インターネット上の以下のURLで、WWWを利用した検索システムを公開した。

<http://www.info.ioc.u-tokyo.ac.jp/cbooks/>

1991年度以降のデータについても、順次入力していく。

1.2. ワーキンググループ(WG)によるデータベース化作業

3つ(古典籍、アジア現代書、特殊資料)のワーキンググループ(WG)を編成し、以下の事業を行っている。

1.2.1. 古典籍WG

本研究所有蔵のA.仁井田文庫、B.今堀文庫、C.倉石文庫のデータベース化を行う。

1.2.2. アジア現代書WG

A.全国朝鮮関係日本語図書所蔵目録、B.南アジア研究書、C.西アジア刊行物のデータベース化を行う。

1.2.3. 特殊資料WG

本研究所有蔵档案資料のデータベース化を行う。

1.3. 『人文研・東文研漢籍目録四角號碼検索頁』の作成

京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターと共同で、WWWを利用した『人文研・東文研漢籍目録四角號碼検索頁』を作成した。これは

『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録・書名人名索引』(1973・75)

『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』(1981)

『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録・書名人名通検』(1963・65)

『京都大学人文科学研究所漢籍目録・書名人名通検索』(1979・80)

の4種の目録の「書名人名索引」を対象として編纂され、撰者名によって、各目録の検索対象撰者が記載されるページ、および段などを検索することができる。現在11,370件が入力されており運用試験を行っている。

2. ドキュメンテーションサービス

2.1. 『東洋学文献センター叢刊』の編集刊行と、『センター通信』の刊行

広くアジア研究のためのレファレンス用資料(書誌・目録・解題・索引・資料

集等)を編集し、『東洋学文献センター叢刊』として刊行している。1997年度末までに叢刊65輯、叢刊別輯23輯、合計88輯を数えることとなった(本書112ページ以降のリスト参照)。引き続き『仁井田文庫』の入力データから冊子体目録を作成する。『センター通信』は、本文献センターの活動報告、情報サービスに関する各方面からの提言などを中心に編集し、諸機関に配付している。1997年度までに38号を刊行した。

2.2. 東洋文化研究所蔵書の目録作成

本研究所は30万冊を越える漢籍・現代中国書を所蔵しており、漢籍については、『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』(本文編1973年、索引編1975年、補訂合冊縮印版1981年、補訂合冊縮印版第2刷1996年)を刊行し、現代中国書については、『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録・索引』(1996年)を刊行した。また、*Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection* [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクション)目録](1988年、II 1996年)を刊行した。

3. 漢籍所在調査 漢籍整理促進事業

当事業の一環として、1980年度から漢籍整理長期研修を実施している。1997年度は6月30日～10月9日に実施し、9名が受講した。研修受講者は、受講後いずれもその所属図書館の収蔵する漢籍の整理作業を開始し、常時本文献センターと連絡を保ちつつ作業を継続しており、成果を挙げている。1998年度も引き続き漢籍整理長期研修を実施する予定である。

4. 漢籍等貴重書複本化

本研究所の漢籍の中には宋刊本・明刊本・朝鮮刊本などの貴重書が多数含まれている。このため、学内外のみならず、海外からも多数の利用者があり、図書館の損耗も少なくない。貴重書は文化財として緊急に保全措置を取る必要に迫られていたが、1989年度から予算が配当されたため、研究所所蔵漢籍の根幹をなす大木文庫を中心に複本化を実施し、1997年度までに324点の複本を作成した。

5. 資料の収集

1997年度(12月末現在)の受入数は、図書25冊(和漢書25冊)、マイクロフィルム103リール(ポジ103リール)である。全所蔵数は図書15,423冊(和漢書14,891冊、洋書532冊)、マイクロフィルム4,262リール(ポジ959リール、ネガ3,303リール)である。なお、新聞は36種(現物13種、マイクロフィルム23種)を継続的に受入れている。

6. 全国文献・情報センター文献・情報共催セミナー

全国文献・情報センターは、各センターが収集してきた資料情報を広く研究者に提供するため共催セミナーを開催してきている。本文献センターは本年度「漢字情報の国際交換」を、京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターと共同で開催した。来年度以降も継続して開催していく。

7. 今後の展望

本文献センターは、漢籍整理長期研修を長年実施し、各機関の漢籍所在調査及び整理編目作業を随時支援する形で、漢籍整理促進事業を推進している。しかし本研究所はアジア全地域を研究対象としており、アジア諸言語の貴重な資料を保有しているため、それらについても研修および他機関との共同作業の実施が望まれている。

本研究所は考古資料や美術資料などの造形資料を多数所蔵している。これらの造形資料を画像データベース化し、インターネットを通じて公開することが望ましい。

本研究所は、カセサート大学(タイ)、香港大学、シンガポール大学との協定に基づき、海外研究基地を設置している。これらの研究基地は、資料収集と情報交換をその重要な活動の一環としており、アジア諸地域の文献・情報の多言語処理システム作りに今後も邁進していきたい。

東京大学東洋文化研究所東洋学文献センター叢刊既刊一覧(*在庫なし)

*第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度)

1968

- *第2輯 清代地方劇資料集（一） 1968
- *第3輯 清代地方劇資料集（二） 1968
- *第4輯 周揚著識論文・周揚批判文献目録 1969
- *第5輯 郁達夫資料 1969
- *第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和42・43年度）
1970
- *第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（上） 1970
- *第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（中） 1970
- *第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（下） 1970
- *第10輯 李大釗文献目録 1970
- *第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970
- *第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970
- *第13輯 魯迅全集注釈索引 1971
- *第14輯 1930年代中国文芸雑誌（一） 1971
- *第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅰ） 1972
- *第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅱ） 1972
- *第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅲ） 1972
- 第18輯 郁達夫資料補篇（上） 1973
- *第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973
- 第20輯 目録学 1973
- 第21輯 花間集索引 1974
- 第22輯 郁達夫資料補編（下） 1974
- *第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（一） 1975
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（二） 1976
- 第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977
- 第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目（一）
1978
- 第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（三） 1978
- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978
- 第30輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（四） 1979
- 第31輯 儀礼疏攷正（上） 1979
- 第32輯 儀礼疏攷正（下） 1979
- 第33輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（五） 1980

- 第34輯 小説月報(1920-1931) 総目録 1980
- 第35輯 コミンテルン定期刊行物 中国関係論説・記事索引 1981
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(二)
1982
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(三)
1982
- 第39輯 仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983
- 第40輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(上) 1983
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(四)
1983
- 第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984
- 第43輯 『植民地雑誌』(*Koloniaal Tijdschrift*) 所収論文目録 1984
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985
- 第45輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985
- 第46輯 宋之間詩索引 1985
- 第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986
- *第48輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(下) 1986
- *第49輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(上) 1987
- 第50輯 沈佺期詩索引 1987
- 第51輯 中華人民共和國・朝鮮民主主義人民共和國 職官歴任表 1987
- 第52輯 韓国政治エリート研究資料——職位と略歴 1987
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(五)
1988
- *第54輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(下) 1988
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引——六朝隋唐宗教・思想資料 1988
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(六)
1988
- 第57輯 郁達夫資料総目録附年譜(上) 1989
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(七)
1989
- 第59輯 郁達夫資料総目録附年譜(下) 1990
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇(一) 1990

- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(八)
1990
- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(九)
1991
- 第63輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載
雑誌名索引 1992
- 第64輯 許壽裳日記(自1940年8月1日至1948年2月18日) 1993
- 第65輯 許舒博士所藏 商業及び土地契約文書——乾泰隆文書(1) 潮汕地区土
地契約文書 1995
-
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録(書名・人名索引)・京都大学
人文科学研究所漢籍分類目録(書名・人名通檢)合併 四角號碼檢字
表 1975
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録(アメリカ・カナダ編) 1977
- *別輯 3 海外所在中国絵画目録(東南アジア・ヨーロッパ編) 1981
- *別輯 4 日本所在中国絵画目録(寺院編) 1982
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982
- *別輯 6 日本所在中国絵画目録(博物館編) 1982
- *別輯 7 日本所在中国絵画目録(個人蒐集編) 1983
- 別輯 8 中国経済関係雑誌記事総目録(一)——『中外経済周刊』『経済半月刊』
『工商半月刊』 1983
- 別輯 9 孟郊詩索引(上) 1984
- 別輯 10 孟郊詩索引(下) 1984
- 別輯 11 中国経済関係雑誌記事総目録(二)——『国際貿易導報』 1985
- 別輯 12 中国経済関係雑誌記事総目録(三)——『中行月刊』 1985
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録(A Catalogue of the articles
in *Tijdschrift voor het Binnenlandsch Betuur*) 1985
- 別輯 14 中国経済関係雑誌記事総目録(四)——『銀行週報』(上) 1987
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧——山西省出土文字資料 1988
- 別輯 16 中国経済関係雑誌記事総目録(五)——『銀行週報』(下) 1989
- *別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(ヨーロッパ編) 1992
- *別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(アメリカ・カナダ編 上 本文
編) 1994

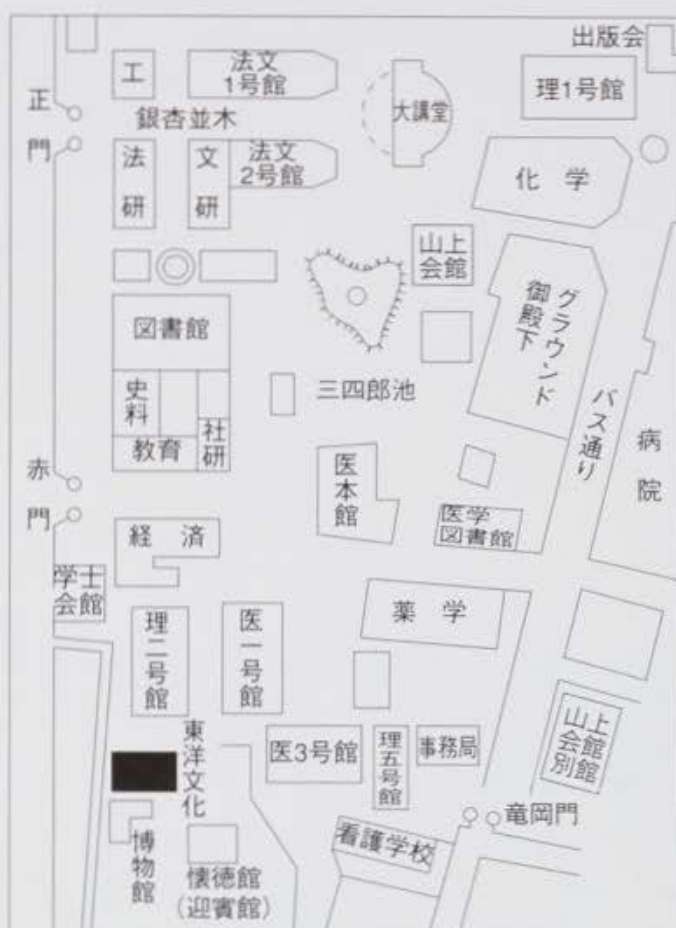
- *別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 下 索引編） 1994
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- *別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（東アジア編） 1997
- *別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯 23 天津史文献目録 1998

漢籍所在調査報告書

- *1. 長崎大学附属図書館経済学部分館漢籍分類目録・熊本大学附属図書館落合文庫漢籍分類目録 1980
- 2. 新潟県立新潟図書館漢籍分類目録・新発田市立図書館漢籍分類目録 1982
- 3. 愛媛大学附属図書館漢籍目録・書名人名索引 1984・85

大型コレクション目録

- Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo*, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本（ダイバーコレクション）目録] 1988
- Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo*, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本（ダイバーコレクションII）目録] 1996



1998年10月28日

東京大学東洋文化研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 (03) 3812-2111 内線5833

ファクシミリ (03) 5684-5964

ホームページ URL <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>

印刷 三秀舎

デザイン 小山忠男

写真 鈴木昭夫・研究所スタッフ

東京大学
東洋文化研究所
要覧
1998



獅子像